

平成26年度

事業報告書



学校法人 高田学苑

Takada Gakuen

高田短期大学、高田高等学校、高田中学校

平成26年4月1日～平成27年3月31日まで

1. 法人の概要

**建学の精神** .....2

**教育方針**

(1)設置する学校、定員及び現員

(2)役員氏名 .....3

(3)教職員数及び組織構成図 .....4

(4)校舎敷地及び建物等の概要 .....5

(5)学生・生徒志願者数推移表 .....6

(6)学生・生徒在籍者数推移表 .....7～8

(7)学生・生徒進路状況等 .....8～10

2. 事業実績の概要

—法人— .....11～18

(1)夏季研修

(2)教職員の福利厚生事業の充実

(3)教職員の表彰

(4)安全管理の取り組み

(5)理事会・評議員会・監事会・内部監査委員会の開催状況及び監査法人監査報告

(6)教職員の異動状況

3. 教育研究活動の実績

—高田短期大学— .....19～58

I. 時代・社会の変化に即応した取り組み

(1)学士力向上を目指した教育課程の展開

(2)主体性・協調性を育む短大生活支援

(3)キャリア教育・キャリア支援の充実

(4)学生募集と高大交流事業

(5)自己点検・評価活動

.....

II. 地域への社会貢献事業

(1)高田短期大学公開講座

(2)教員免許状更新講習

(3)Mie 保育士人材バンク 「takada-jc」

(4)みえアカデミックセミナー2014 ～心豊かな人生へのアクセス～

(5)大学サロンみえ

(6)大学ポートレートによる情報公開

(7)「三重県私立高等教育機関の包括的連携に関する協定」の締結

.....

III. 各学科による取り組み

〈子ども学科〉

(1)家庭教育支援コーディネーター養成講座(基礎コース)

(2)子ども学科年報発行

.....

〈キャリア育成学科 オフィスワークコース〉

(1)スキルアワード

(2)各種検定の学内実施

(3)フレンテーク

(4)地域連携—平成26年度第1回シニアパソコン教室

(5)社会体験実習の実施

.....

〈キャリア育成学科 介護福祉コース〉

(1)コミュニティカレッジ

(2)平成26年度日本介護福祉士養成施設協会東海北陸ブロック教員研修会

.....

IV. 地域連携施設

〈仏教教育研究センター〉

(1)研究会の開催

(2)仏教教育研究センター公開講座

(3)仏教基礎講座(高田本山寄附講座)

(4)仏教専門講座(高田本山寄附講座)

(5)センター蔵書の整備

.....

〈育児文化研究センター〉

(1)育児文化室 地域開放事業「おやこひろば たかたん」

(2)研究会

(3)子育て応援隊活動

(4)広報物及び研究成果の発行

(5)関連会議

(6)津市委託事業

(7)研究事業

(8)その他

.....

〈キャリア研究センター〉

(1)平成26年6月設立

(2)事業活動

(3)研究活動

(4)会議運営

.....

〈介護福祉研究センター〉

(1)平成26年4月設立

(2)事業活動

(3)研究活動

(4)会議関係

(5)その他の後援事業

.....

IV. その他の学内情報

〈ボランティア活動支援室〉

〈仏教行事委員会〉

〈施設設備整備事業の実績〉

.....

—高田中学校・高田高等学校— .....59～72

(1)キャリア教育推進事業

(2)部活動の推進事業

(3)防災教育・危機管理教育の取り組み

(4)教職員の資質向上事業

(5)きめ細やかな学習指導の推進

(6)命の大切さを考える教育の推進事業

(7)国際交流事業

(8)自己点検・学校関係者評価推進事業

(9)科学技術学習探求事業

(10)教職員海外研修事業

(11)人権教育研修の推進

(12)高田中・高等学校公開イベント事業

(13)学校安全・保健計画の推進

(14)施設設備整備事業の実績

.....

4. 財務の概要

(1)資金収支計算書の概要 .....73～74

(2)消費収支計算書の概要 .....75～78

(3)貸借対照表の概要 .....79～80

(4)財務比率推移表 .....81

(5)財産目録 .....82

# 1 法人の概要

## 建学の精神

本学苑は仏教精神を基として宗教的情操を培い、人間性豊かな社会人を育成することを建学の精神としている。

## 教育方針

### <短期大学>

建学の精神をふまえ、単に専門知識・技能の教授のみならず、「自分の立場や他人の立場を理解し、人や自然と優しく交わることのできる、おおらかで柔軟な思いやりのある心」を培う教育をめざしている。

### <中・高等学校>

真宗高田派の宗門立学校として、言行忠信、表裏相応を校訓として、仏教教育による人間味の豊かさを深め、規律精神を基とした行動力の育成と基礎学力の充実錬磨につとめ、広い視野から社会に貢献できる人材の養成をめざした教育を行っている。また、中学校・高等学校一貫六年制コースを設置し、高い水準の学力と知的な生徒を育成している。

## (1) 設置する学校、定員及び現員

- ◆ 高田短期大学      三重県津市一身田豊野 195  
    子ども学科  
    キャリア育成学科
- ◆ 高田高等学校      三重県津市一身田町 2843
- ◆ 高田中学校      三重県津市一身田町 2843

### ○高田短期大学

(平成26年5月1日現在)

学科名	入学定員	收容定員	1年生	2年生	合計
子ども学科	150名	300名	151名	163名	314名
キャリア育成学科	100名	200名	81名	80名	161名
(オフィスワークコース)	(60名)	(120名)	(63名)	(56名)	(119名)
(介護福祉コース)	(40名)	(80名)	(18名)	(24名)	(42名)
オフィス人材育成学科	-	60名	-	2名	2名
合計	250名	500名	232名	245名	477名

### ○高田高等学校

募集定員	收容定員	1年生	2年生	3年生	合計
570名	1705名	583名	627名	628名	1838名

(学則定員 730名) (3ヵ年計 2190名)

### ○高田中学校

募集定員	收容定員	1年生	2年生	3年生	合計
200名	600名	199名	200名	201名	600名

(学則定員 240名) (3ヵ年計 720名)

## (2) 役員氏名

<理事 定数10名 実数9名>

(平成27年3月31日現在)

区 分	氏 名	現 職
第1号 宗務総長	安藤 光淵	真宗高田派 宗務総長
第2号 学苑長	高臣 文祥	学校法人高田学苑 理事長(学苑長)
短大学長	栗原 廣海	高田短期大学 学長
中・高校長	梅林 久高	高田中・高等学校 校長
第3号 評議員	伊藤 友治	(有)平治煎餅 会長、(株)津銘菓 代表取締役
	望月 演	(宗)真宗高田派 光圓寺住職
	井村 正勝	井村屋グループ(株) シニア・フェロー
	永井 玲子	元津家庭裁判所 調停委員
	志田 行弘	三重テレビ放送(株)代表取締役社長

<監事 定数2名 実数2名>

区 分	氏 名	現 職
監事	下津 和文	下津醤油(株) 代表取締役会長
	紀太 允	(一社)三重県警備業協会 監事

<評議員 定数21~25名 実数21名>

区 分	氏 名	現 職
第1号 宗務総長	安藤 光淵	真宗高田派 宗務総長
第2号 学苑長	高臣 文祥	学校法人高田学苑 理事長(学苑長)
短大学長	栗原 廣海	高田短期大学 学長
中・高校長	梅林 久高	高田中・高等学校 校長
第3号 法人職員	千草 篤麿	高田短期大学 子ども学科長
	鷲尾 敦	高田短期大学 キャリア育成学科長
	伊藤 哲哉	高田中・高等学校 副校長
	辻井 明子	高田中・高等学校 教頭
第4号 功労者	望月 演	(宗)真宗高田派 光圓寺住職
	井村 正勝	井村屋グループ(株) シニア・フェロー
	岩崎 克彦	医療法人思源会 常務理事
	柘植 宗隆	元高田高等学校教頭
第5号 卒業生	前畑みち代	高田短期大学非常勤講師・育児文化研究センター客員研究員
	落合 壽	元津市議会議員
	松田 英明	三重セキ販売(株) 代表取締役社長
	倉田 栄治	(株)津ドライビングスクール 代表取締役社長
第6号 本山総務	鈴木 紀生	(宗)真宗高田派総務
第7号 学識経験者	伊藤 友治	(有)平治煎餅 会長、(株)津銘菓 代表取締役
	坪井 俊輔	弁護士 坪井法律事務所
	永井 玲子	元津家庭裁判所 調停委員
	志田 行弘	三重テレビ放送(株) 代表取締役社長



#### (4) 校舎敷地及び建物等の概要

##### 校舎敷地等の概要

区分		専用面積(㎡)	計面積(㎡)	所在地	権利の所属	備考
短期 大学 用地	校舎敷地	7,399	7,399	津市一身田豊野	自己所有	
	運動場用地	5,921	5,921	〃	〃	
	学生用駐車場用地	2,392	2,392	〃	〃	
	その他	3,279	3,279	〃	〃	緑地等
	計	18,991	18,991			
上記 以外 の学 校用 地	中学校校舎敷地	1,274	1,274	津市一身田町	自己所有	内 借用588㎡
	高等学校校舎敷地	15,180	15,180	〃	〃	内 借用578㎡
	中学校運動場用地	14,481	14,481	〃	〃	
	高等学校運動場用地	43,441	43,441	〃	〃	内 借用3,275㎡
	その他	4,167	4,167	〃	〃	内 借用1,663㎡
	計	78,543	78,543			
合 計		97,534	97,534			
校地以外の土地		61,913	61,913	津市芸濃町河内	自己所有	山 林

##### 校舎等建物の概要<短期大学の部>

校舎等建物面積等				
区分	面積(㎡)	室数	構 造	権利の所属
1号館	3155.60	33	鉄筋コンクリート造陸屋根5階建	自己所有
2号館	4163.75	38	鉄筋コンクリート造陸屋根4階建	〃
3号館	1743.64	15	鉄筋コンクリート造陸屋根3階建	〃
音楽棟	858.82	23	鉄筋コンクリート造陸屋根3階建	〃
図書館	803.19	8	鉄筋コンクリート造陸屋根3階建	〃
体育館	1983.96	15	鉄筋コンクリート造アルミニウム板葺3階建	〃
部室	31.68	2	鉄骨造2階建	〃
その他	16.98			〃
計	12757.62	134		

##### 校舎等建物の概要<法人本部、高等学校・中学校の部>

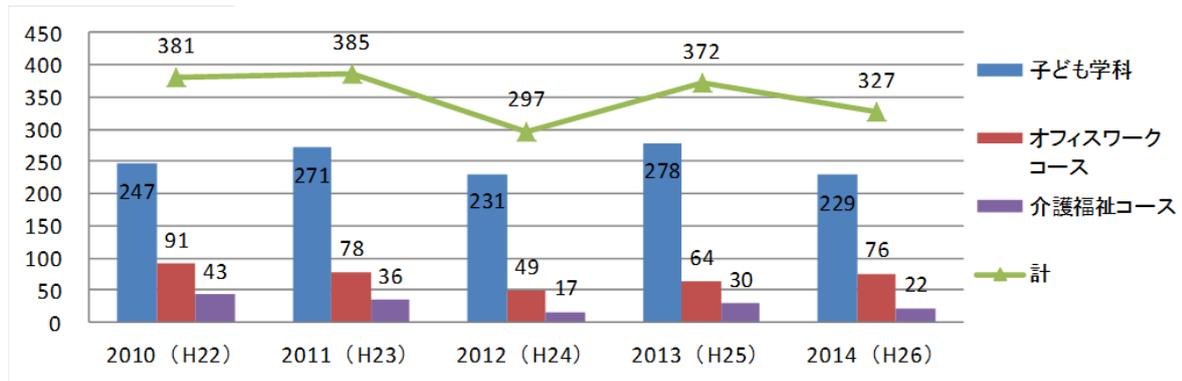
校舎等建物面積等				
区分	面積(㎡)	室数	構 造	権利の所属
本館	4721.83	36	鉄筋コンクリート造陸屋根7階建	自己所有
1号館	2722.10	25	鉄筋コンクリート造陸屋根3階建	〃
2号館	2155.05	21	鉄筋コンクリート造陸屋根3階建	〃
3号館	2609.31	13	鉄筋コンクリート造切妻屋根5階建	〃
4号館	3125.59	16	鉄筋コンクリート造切妻屋根5階建	〃
5号館	4113.15	29	鉄筋コンクリート造切妻屋根5階建	〃
管理棟1	207.23	5	鉄骨造ルーフィングぶき2階建	〃
管理棟2	98.88	4	鉄骨造ルーフィングぶき2階建	〃
厩舎棟	396.00	8	鉄骨造ルーフィングぶき2階建	〃
第1体育館	3819.78	16	鉄筋コンクリート造陸屋根3階建	〃
第2体育館	1889.03	12	鉄筋コンクリート造切妻屋根3階建	〃
クラブハウス	422.10	29	鉄筋コンクリート造2階建	〃
プール施設棟	337.58	2	鉄筋コンクリート造2階建	〃
施設管理棟	122.40	4	鉄骨造合金メッキ鋼板ぶき平屋建	〃
その他	152.38			
計	26892.41	220		
合計	39650.03	354		

備考(その他) 機械室6.62㎡ 倉庫東、西47.95㎡ 渡り廊下67.50㎡ テニスコート部室30.31㎡

(5) 学生・生徒志願者数推移表 (平成26年5月1日現在)

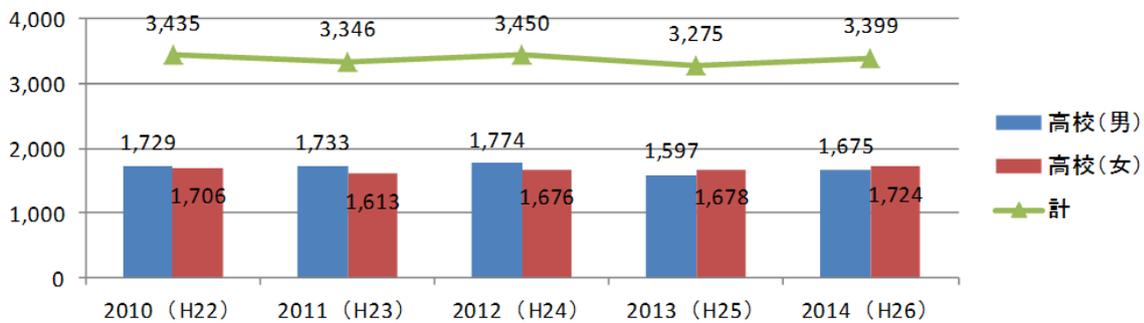
(単位:人)

高田短期大学	2010(H22)	2011(H23)	2012(H24)	2013(H25)	2014(H26)
子ども学科	247	271	231	278	229
オフィスワークコース	91	78	49	64	76
介護福祉コース	43	36	17	30	22
計	381	385	297	372	327



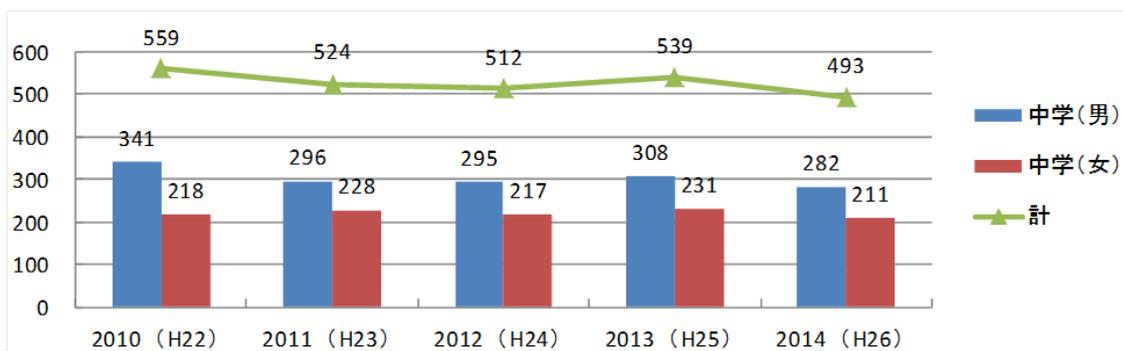
(単位:人)

高田高等学校	2010(H22)	2011(H23)	2012(H24)	2013(H25)	2014(H26)
高校(男)	1,729	1,733	1,774	1,597	1,675
高校(女)	1,706	1,613	1,676	1,678	1,724
計	3,435	3,346	3,450	3,275	3,399



(単位:人)

高田中学校	2010(H22)	2011(H23)	2012(H24)	2013(H25)	2014(H26)
中学(男)	341	296	295	308	282
中学(女)	218	228	217	231	211
中学計	559	524	512	539	493



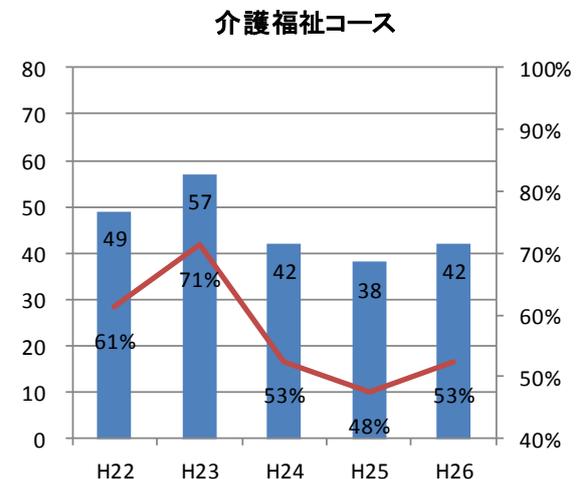
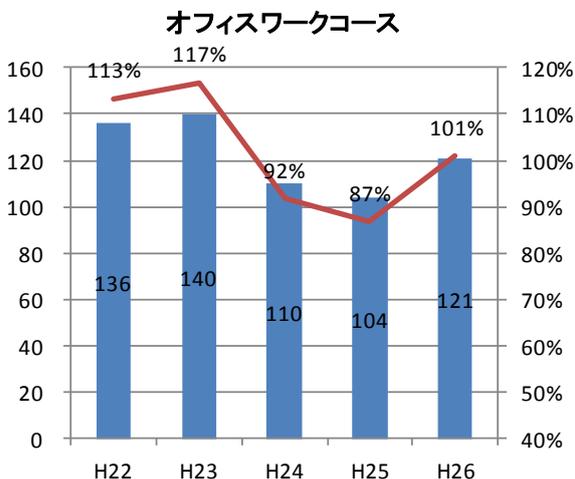
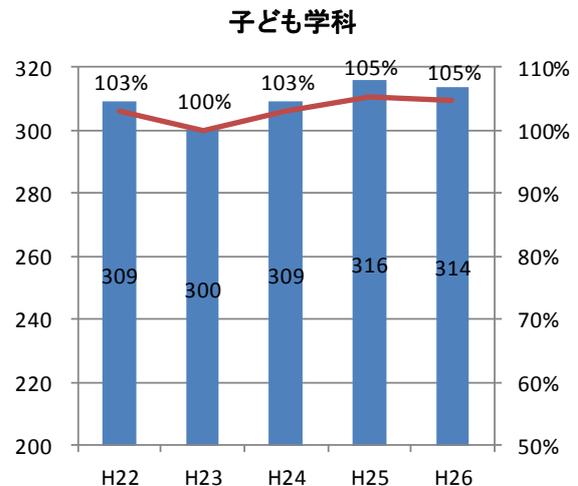
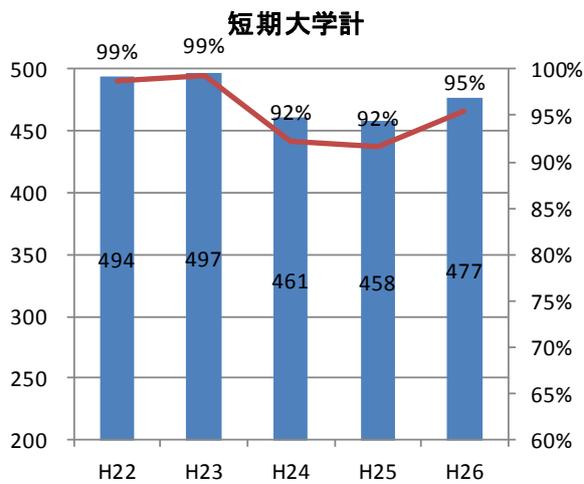
(6) 学生・生徒在籍者数推移表（平成26年5月1日現在）

短期大学

(単位:人・%)

区分	項目	2010(H22)	2011(H23)	2012(H24)	2013(H25)	2014(H26)
子ども学科	在学生数	309	300	309	316	314
	収容定数	300	300	300	300	300
	充足率	103%	100%	103%	105%	105%
キャリア育成学科 オフィスワークコース (オフィス人材育成学科)	在学生数	136	140	110	104	121
	収容定数	120	120	120	120	120
	充足率	113%	117%	92%	87%	101%
キャリア育成学科 介護福祉コース	在学生数	49	57	42	38	42
	収容定数	80	80	80	80	80
	充足率	61%	71%	53%	48%	53%
短大計	在学生数	494	497	461	458	477
	収容定数	500	500	500	500	500
	充足率	99%	99%	92%	92%	95%

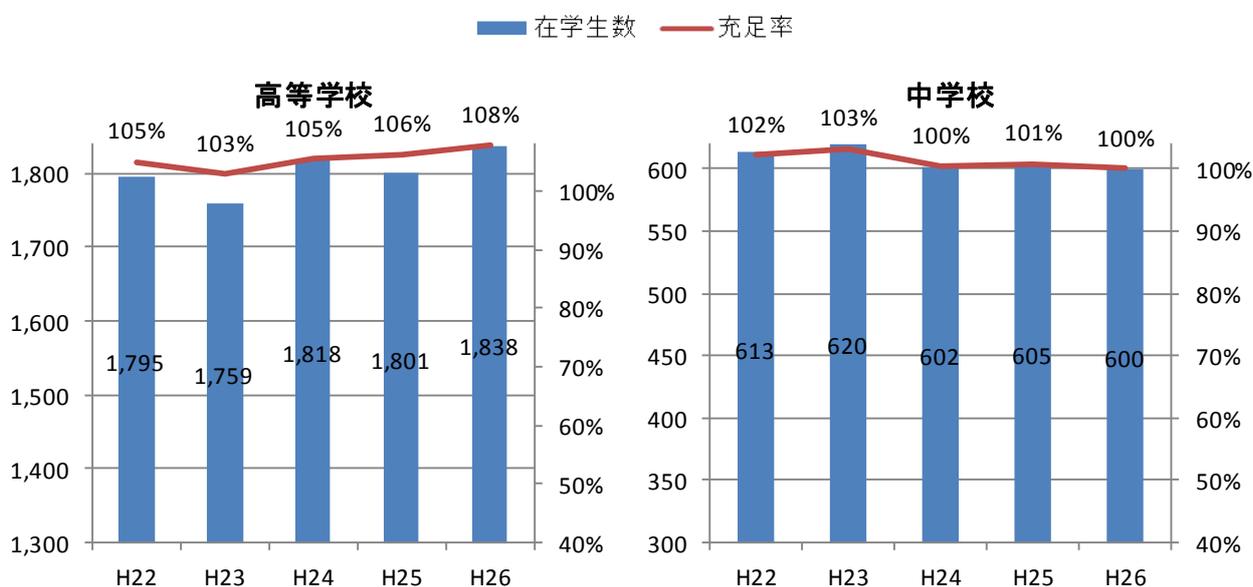
■ 在学生数    ● 充足率



中・高等学校

(単位:人・%)

区分	項目	2010(H22)	2011(H23)	2012(H24)	2013(H25)	2014(H26)
高田高等学校	在学生数	1,795	1,759	1,818	1,801	1,838
	募集定数	1,710	1,710	1,725	1,695	1,705
	充足率	105%	103%	105%	106%	108%
高田中学校	在学生数	613	620	602	605	600
	募集定数	600	600	600	600	600
	充足率	102%	103%	100%	101%	100%
中高計	在学生数	2,408	2,379	2,420	2,406	2,438
	募集定数	2,310	2,310	2,325	2,295	2,305
	充足率	104%	103%	104%	105%	106%



(7) 学生・生徒進路状況等

短期大学

1) 卒業者・進学者・就職者数

	子ども 学科	キャリア育成学科		計	摘要
		オフィス	介護		
卒業者	157	58	24	239	
就職希望者	156	56	21	233	
就職決定者	156	54	20	230	
未内定者	0	2	1	3	
進学者	0	1	1	2	専門学校等
その他	1	1	2	4	家事従事等

## 主な就職先（平成27年5月1日現在）

(株)赤塚植物園	朝日ガスエナジー(株)	井村屋グループ(株)
カヤバシステムマシナリー(株)	北伊勢上野信用金庫	紀北信用金庫
三洋自動車(株)	JA三重中央	JA鈴鹿
(株)ジェイテクト	(株)百五銀行	(株)百五経済研究所
三菱自動車販売(株)	(株)三重銀行	(株)ミツイバウマテリアル
村瀬病院		
あおい幼稚園	梅村幼稚園	大川幼稚園
さくら幼稚園	津田幼稚園	富田文化幼稚園
藤幼稚園	まきば幼稚園	
高田保育園	つ保育園	長太の浦保育園
びはり保育園	藤水保育園	ほうりん保育園
三重愛育保育園	ゆたか保育園	わかすぎ保育園
若葉保育園		
鳳林会榊原白鳳病院	済生会明和病院なでしこ	サンヒルズガーデン
聖マッテヤ子供の家	特養 高田光寿園	

## 2) 過去2ヶ年の公務員試験合格者（平成27年3月5日現在）

### ●子ども学科

市町名	職種	現役学生		卒業生		計	
		H26	H25	H26	H25	H26	H25
津市	保育士	1名	2名	3名	3名	4名	5名
〃	幼稚園教諭				1名		1名
伊勢市	保育士		1名	1名		1名	1名
松阪市	保育士・幼稚園教諭	2名	2名	2名	1名	4名	3名
桑名市	保育士・幼稚園教諭				1名		1名
鈴鹿市	保育士	2名	1名		1名	2名	2名
亀山市	保育士・幼稚園教諭	1名				1名	
鳥羽市	保育士			1名		1名	
菰野町	保育士・幼稚園教諭	1名				1名	
多気町	保育士	1名		1名		2名	
明和町	保育士・幼稚園教諭	1名	1名			1名	1名
大台町	保育士	2名	1名			2名	1名
玉城町	保育士	1名		1名		2名	
度会町	保育士		2名				2名
大紀町	保育士				1名		1名
計		12名	10名	9名	8名	21名	18名

※職種の「保育士・幼稚園教諭」は、4月採用の段階でどちらかに配属されます。

### ●キャリア育成学科 オフィスワークコース

年度	採用試験名	職種	現役学生	卒業生	計
H26	裁判所職員	事務	1名		1名
H25	度会町職員	事務	1名		1名

# 高等学校

## 1) 卒業生数

		男	女	計
三年制	I類	102	110	212
	II類	102	98	200
六年制		130	83	213
計		334	291	625

## 2) 進学合格者のべ数（既卒者含む）

		三年制				小計	六年制		小計	合計
		I類		II類			現	卒		
		現	卒	現	卒					
四年制大学	国立	0	0	5	2	7	91	25	116	123
	公立	1	0	4	1	6	10	6	16	22
	私立	168	4	286	19	477	381	150	531	1,008
文部科学省所管外		0	0	1	0	1	3	2	5	6
短大	公立	4	0	9	0	13	0	0	0	13
	私立	48	0	16	0	64	0	0	0	64
国公立各種・専門学校		0	0	4	0	4	0	0	0	4
私立各種・専門学校		45	0	7	0	52	0	0	0	52
就職		2	0	1	0	3	1	0	1	4

### 主な進学先（平成27年4月10日現在）

#### ●国公立大学 合計 145名（医学科39名）

東京大学	10名（理科三類 1名）	名古屋大学	11名（医学科 1名）
京都大学	15名（医学科 2名）	三重大学	35名（医学科 23名）
大阪大学	10名	神戸大学	4名
一橋大学	1名	名古屋市立大学	10名（医学科 4名）
筑波大学	2名		

#### ●私立大学 合計 1,008名

早稲田大学	30名	南山大学	38名
慶應義塾大学	20名	愛知大学	20名
上智大学	3名	中京大学	34名
東京理科大学	30名	名城大学	44名
明治大学	16名	近畿大学	46名
中央大学	17名	皇學館大学	66名
同志社大学	50名	鈴鹿医療科学大学	42名
立命館大学	56名		

#### ●短期大学 合計 77名

高田短期大学	39名	三重短期大学	13名
--------	-----	--------	-----

## 2 事業実績の概要

### 法人

#### (1) 夏季研修

例年、夏期休暇を利用して教職員の資質向上を目的として行っている教職員研修ですが、昨年度よりその対象を従来の教職員から保護者や周辺地域住民にまで広げ、研修内容に関しても広く一般の方に興味を持たれる内容にしています。本年度は平成26年8月20日（水）に中高等学校本館の講堂において、教職員約200名、保護者約25名、周辺地域住民約20名の約245名の参加者を迎え盛大に開催されました。

高田学苑長の挨拶に始まり、第1部は滋賀県を拠点とし近畿・東海地方を中心に人権啓発の活動をされている世直歩氏を講師に迎え、「ひとり語り『しまひき鬼』と人権」の講演を行いました。世直氏が人権啓発活動の実践を心に誓うきっかけとなったひとりの少女との出会いに始まり、有名な昔話「しまひき鬼」を題材に、島の人たちと一緒に暮らしたい一心で島を引っ張って歩く鬼の報われない思いに触れながら人権教育の大切さをひとり語りと歌を交えてご講演いただきました。

第2部は三重県警察本部の松岡清貴警部にお越しいただき、インターネットに潜むリスクに関する講演を行いました。松岡氏は昭和60年4月に三重県警察拝命後主に生活安全部門に勤務され、ストーカー対策、情報管理対策等の担当を経て、平成26年4月より生活安全部・サイバー犯罪対策課補佐としてサイバー犯罪対策を担当されています。近年急速に普及するスマートフォンやパソコン、タブレット端末等によりインターネット環境が幅広い年齢で利用可能となり、便利になった反面それに起因する問題や犯罪がメディアでも数多く取り上げられています。匿名性の高さから悪いことをしているという罪の意識も低く、現に中高生が犯罪に巻き込まれたり陰湿なイジメに発展したりするなど、深刻な社会問題となっています。こうしたインターネットを利用した事件が多発している現状を受け、インターネットに潜むリスクやサイバー犯罪から子どもたちの身を守るためのルールやマナー遵守など、具体的な事例を交えながらご講演していただきました。



第1部 ひとり語りの様子



第2部 講演の様子

#### (2) 教職員の福利厚生事業の充実

平成23年度より夏期休暇中に実施をしている健康診断を、7月31日（木）、8月1日（金）、4日（月）の3日間で開催しました。検査項目については学校保健法、結核予防法、労働安全衛生法などで定められた項目を遵守し、教職員約200名が受診しました。

検査結果は個人に直接通知され、教職員の健康管理に役立っています。また、この結果をもとに高田学苑の産業医である岩崎病院に健康管理に役立つ適切な指導・助言を行っていただいています。

また、がんが疾病による死亡の最大の原因となっていることから、がん対策の一層の充実を図る為ため、10月28日（火）に乳がん検診、11月17日（月）及び21日（金）に腹部エコー・前立腺がんの任意検診を費用の約半額程度を補助する形で行いました。

### (3) 教職員の表彰

#### 1) 高田学苑特別表彰 平成26年11月 5日(水)

<中・高等学校> 1名

昭和51年に高田中・高等学校の教諭に就任して以来、平成17年に生徒指導部長職、平成19年に副教頭職、平成22年には教頭職、平成23年より校長職に就き、本学の学校運営に携わりつつ後進の育成に力を注がれています。

39年の永きにわたり本学苑の建学の精神にのっとり学苑の発展のため献身的な努力を重ねられた功績により、平成25年度文部科学大臣教育者表彰を受賞されました。その栄誉をたたえ、高臣学苑長より平成26年度特別表彰を受賞されました。



特別表彰の様子

#### 2) 永年勤続表彰

40年勤続 1名

<短期大学> 平成26年11月10日(月) 計3名

35年勤続 1名

20年勤続 1名

10年勤続 1名

<中・高等学校> 平成26年11月 5日(水) 計14名

40年勤続 2名

35年勤続 2名

30年勤続 4名

15年勤続 1名

10年勤続 4名



永年勤続表彰の様子(中高)

### (4) 安全管理の取り組み

#### 1) AED(自動対外式除細動器)設置(7台)

<短期大学>

- 1号館 1階正面玄関

<中・高等学校>

- 本館 1階正面玄関(地域住民への対応)
- 4号館 1階保健室
- 第1体育館 2階体育教官室
- 西グラウンド管理棟1・2 2階管理室
- 西グラウンド厩舎棟 1階管理室前(外部)



## 2) 地域避難所（体育館）の指定・防災倉庫の設置

高田学苑は津地域避難所として指定されています。これに伴い短期大学及び中・高等学校に防災倉庫を設置し、備蓄品の保管をしています。

生徒・教職員は勿論のこと地域住民の皆様方が災害時における危険回避のための避難が円滑に行われるように、避難場所の周知を行っています。



中・高等学校の防災倉庫

## 3) 緊急地震速報受信システムの活用



平成22年12月より中・高等学校及び短期大学に緊急地震速報受信システムを導入しました。これは震度5弱以上の地震が発生した場合、大きな揺れが到達する前に校内に一斉放送で知らせることにより、生徒及び教職員の安全を確保するものです。

このシステムの導入により、既に運用している「地震・災害マニュアル」も、このシステムに対応したものになっています。

## 4) ポケット防災ガイドの配布

The poster contains several sections:

- 地震発生時 (Earthquake Occurs):**
  - 地震発生:** 大きな揺れは長く1分程度。◎落ち物 ◎身を守れ
  - 1~2分:** 揺れがおさまったら。◎非常出口の確保 ◎非常持ち出し品 ◎家族1人1人の安全確認 ◎靴を履け ◎火が出たら最早消火
  - 3分:** みんなの無事を確認 火災発生も防ぐ。◎高電・ガス漏れに注意 ◎周辺への声かけ ◎津波から避難
  - 5分:** ラジオなどで正しい情報を。◎デマに惑わされるな ◎車で逃げるな ◎防災機関の情報確認
  - 10分~数時間後:** 協力して消火、救護、救出活動を。◎宗廟に注意 ◎みんなでお助け合おう
  - ~3日:** 避難生活は不自由なもの。◎水・食糧は備蓄でまかなう ◎災害情報などの収集 ◎壊れた家に入るな ◎避難所では協力し合う
- 地震発生時に屋外にいる場合 (When Outside During Earthquake):**
  - 電車やバスに乗っていたら:** 1. つり革や手すりにつかまりつつがらみましょう。 2. あわてて飛び降りず、車輪などの方向に寝て避難しましょう。
  - 海岸や河川付近にいたら:** 1. 波を感した瞬間に海に入らずに、車輪などの方向に避難しましょう。 2. 正しい情報をラジオ、広報などで受け取りましょう。
  - 車に乗っていたら:** 1. 徐々にブレーキを踏んで、道路の左側に車を止めましょう。 2. カーラジオで状況を確認しましょう。 3. 車から降りる時は、キーをつけたまま、ドアをロックせずに避難しましょう。
  - 街中を歩いている:** 1. 落下物から身を守るため、かぶりや衣類などで頭を覆いましょう。 2. 落下物、ガラスの破片、電線、電柱から離れましょう。
  - エレベーターにいたら:** 1. 地震のボタンを押すのを待たず、速に降りましょう。 2. 感電の恐れがあるため、天井部分からは逃げようとはしないでください。 3. あわてず扉を押し、指示に従ってください。
- 非常持ち出し品・備蓄品の確認 (Checklist):**
  - 非常持ち出し品:** 水、100円玉、電池、マッチライター、懐電、メガネ、マスク、ティッシュ、ハンカチ、靴下、ナイフ、避難カード、ロープ、懐中電灯、非常食、非イッセル、カイロ、非常用器具、薬袋、消毒液、ドライシャンプー、現金、救急医薬品、タオル、靴底の靴、ハンカチ、身分証、缶詰用のラップ、非常用品、衣類(下着)、寝具、寝具用、傘、タオル(毛布)、ゴミ袋、タオル、ハンカチ、ヘルメット、携帯ラジオなど。
  - 備蓄品:** 水1人1日分、ガスコンロ、ビニール袋、ビニールシート、バケツ、非常食、非常用品、靴下、ハンカチ、タオル、その他アウトドア用品など。
- 高田中・高等学校 災害避難マップ (Map):** Shows the location of Takada High School and University, nearby roads, and designated evacuation routes and shelters (e.g., Takada High School Gymnasium).

東海地方では近い将来東海・東南海連動型地震が発生することが危惧されています。

東日本大震災の教訓を生かし、地震発生時に学生生徒及び教職員がスムーズに避難できるようにするため、本学苑では災害発生時の対応をマニュアル形式で記載した名刺サイズの防災ガイドを短期大学・中高等学校別に作成し、全校生徒及び全教職員に配布しています。

学生生徒及び教職員はこの防災ガイドを常に携帯し、災害発生時に自分のいのちを自分で守れるよう啓蒙活動にも力を入れていきます。

〔左図〕中・高等学校のポケット防災ガイド（短大も同形式で作成）

## <短期大学>

### ◇防災訓練の実施

10月の防災訓練は台風により中止とし、1月22日（木）に避難訓練を実施しました。

訓練は、調理実習室より出火したとの想定で、学生の避難誘導、AED等持ち出し品の搬出を行いました。

当日は雨天のため避難場所を体育館としました。昼休みの短い時間でしたが、多数の教職員・学生が参加しての実施となりました。



## <中・高等学校>

### ◇緊急災害時避難場所開設フローチャート

中・高等学校が津市の地域防災一次避難所に指定され、防災倉庫が設置されたことにより、高田学苑においても周辺地域の避難場所としての責務に応える必要があります。

緊急災害時の混乱が予想される状況において、迅速に避難所を開設するために、平成23年度に「緊急災害時避難場所開設フローチャート」を作成しました。今回は事務職員を中心として、パターン別に災害時の行動指針をフローチャートにまとめました。このチャートを普段よく見る場所に掲示し、事務職員の意識付けに役立て、緊急災害時における迅速な避難場所の開設に役立てていきたいと思ひます。



### ◇防災訓練の実施

中・高等学校においては、毎年防災の日を迎えるにあたり、昨年度までは主に生徒や教職員を対象とした防災訓練を実施しておりましたが、本校が津市の一次避難所に指定されていることから地域住民の避難場所としてのニーズがより一層強まったことにより、本年度は9月2日（火）に生徒と地域住民が合同で行う防災訓練を実施しました。

訓練は地震に対する避難訓練と大津波警報発令による避難訓練の2つに分かれ、間に消防デモンストレーションや他企業の協賛による非常食の試食会や簡易トイレ・間仕切りの展示などのイベントをはさみ行われました。

当日は生徒約2,400人、教職員約200人、地域住民約160人総勢約2,760人が参加し、報道機関も多数取材に訪れる大規模なものとなりました。

地域住民との合同訓練は今回が初めてであったためいくつかの反省点はありますが、この反省点を次年度に生かし、今後継続的で実用的な避難訓練にしていきたいと思ひます。



## 5) 非常用備蓄食品（白い小箱）の購入

いつどこで起こるか分からない災害に備え、非常食や非常時に役立つ備品を常備する重要性は年々高まっています。

そこで本学苑では中高等学校保護者会・短期大学教育後援会の協力を得て、災害時に役立つ非常食等備蓄品（白い小箱）を3,210個購入しました。

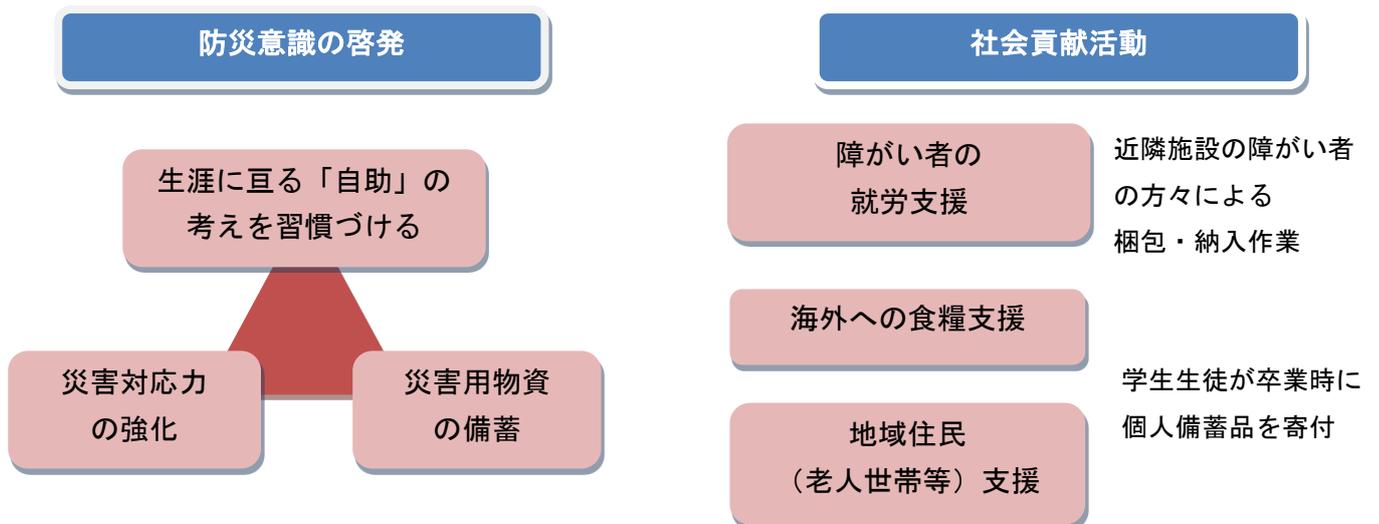
同時に、災害用物資の供給に関して広域的な支援をする体制を構築するため、一般社団法人日本非常食推進機構と「災害用物資を活用した防災活動に関する協定」を結びました。この協定は、防災意識の啓発活動を互いに協力して実施していくことにより災害への対応力を強化し、学生生徒が生涯に亘って「自助」の考えを習慣づけることを目的としています。



非常用備蓄食品

「自助」「共助」「公助」を連携し助け合いの社会を創るこの「白い小箱運動」に参加することは、障がい者就労支援・海外への食糧支援・地域住民との連携及び支援という三つの社会貢献活動にも繋がっていきます。

これらの防災啓発事業を円滑に推進するため、日本非常食推進機構とは今後も定期的に情報交換を行っていく予定です。



調印式の様子



搬入の様子

## 6) 三重県産業安全衛生大会における優良事業場賞の表彰

事業場においては、労働者の安全と健康を確保し、職場環境の快適化を実現させることは重要な責務となっています。

本学苑では教職員の健康維持と快適な職場づくりを目指し、様々な取り組みを行っています。その一環として全館を禁煙とし、喫煙者には喫煙室を確保しています。

また、毎年行われる健康診断の結果を産業医に提出し、個別のアドバイスを貰うことで教職員の健康意識の向上に役立てています。美化活動に関しては毎日の生徒と教員による清掃に加え、施設管理補助員を配置し清潔な職場環境を保っています。

こうした衛生管理活動が認められ、平成26年10月1日に行われた三重県産業安全衛生大会の衛生表彰において、優良事業場賞を表彰されました。

本学苑は今後も快適な職場環境の維持向上に努めていきます。



## (5) 理事・評議員会・監事会・内部監査委員会の開催状況及び監査法人監査報告

平成26年度も高田学苑寄附行為に基づき、計3回の理事会、3回の評議員会が開催されました。

また、本学苑では私立学校に義務付けられている監査法人及び監事の監査に加え、内部監査委員による監査を行い、学校法人におけるガバナンスが適切に機能しているか、外部及び内部から監督・指導を受けています。平成26年度に行われた各会の開催日と議題は以下になります。

### 1) 理事会

平成26年 5月30日(金) 【審議事項】

平成25年度決算の承認について

平成26年11月 7日(金) 【審議事項】

平成26年度第1回収支補正予算について

学校法人高田学苑組織規程の一部改正について

学校法人高田学苑公印取扱規程の一部改正について

学校法人高田学苑情報公開規程の一部改正について

高田短期大学学則の一部改正について

高田高等学校授業料等生徒納付金助成規程の一部改正について

平成27年 3月27日(金) 【審議事項】

高田短期大学オフィス人材育成学科の廃止について

平成26年度第2回収支補正予算について

平成27年度収支当初予算について

学校法人高田学苑定年退職者の再雇用に関する規則の制定について

学校法人高田学苑勤務規則の一部改正について

学校法人高田学苑定年規程の一部改正について

再雇用職員及び嘱託・非常勤講師等勤務規則の一部改正について

学校法人高田学苑給与規程の一部改正について

再雇用職員、短期大学に勤務する特任の教員及び嘱託・非常勤講師等給与規程の一部改正について

学校法人高田学苑退職手当支給規程の一部改正について  
高田短期大学学則の一部改正について  
高田短期大学教授会規程の一部改正について  
高田高等学校授業料等生徒納付金助成規程の一部改正について

【諮問事項】

評議員の選任について

## 2) 評議員会

平成26年 5月30日(金) 【審議事項】

平成25年度決算の承認について

平成26年11月 7日(金) 【審議事項】

平成26年度第1回収支補正予算について

平成27年 3月27日(金) 【審議事項】

平成26年度第2回収支補正予算について

平成27年度収支当初予算について

【諮問事項】

高田短期大学オフィス人材育成学科の廃止について

## 3) 監事会

平成26年 5月23日(金) 【議事】

平成25年度短期大学及び中・高等学校概要報告

平成25年度決算審査関係

決算審査関係質疑応答

平成26年11月 4日(火) 【議事】

平成26年度短期大学及び中・高等学校概要報告

平成26年度第1回補正予算書及び現預金状況

平成26年度事業実績報告(中間)

質疑応答及び実査

## 4) 内部監査委員会

平成26年 5月20日(火) 【議事】

平成25年度短期大学及び中・高等学校概要報告

平成25年度事業実績報告

平成25年度決算概要報告

学苑管理運営等について(質疑応答)

平成26年10月30日(木) 【議事】

平成26年度短期大学及び中・高等学校概要報告

平成26年度事業実績中間報告

現金、預金及び有価証券等の状況

学苑管理運営等について(質疑応答)

## 5) 監査法人監査 監査法人名：五十鈴監査法人

平成26年 4月 2日 (水)	現金、通帳、証書の実査
平成26年 5月19日 (月) 他	平成25年度決算監査
平成26年 9月18日 (木)	平成26年 8月までの取引記録
平成26年12月 9日 (火)	平成26年11月までの取引記録
平成27年 1月20日 (火)	平成26年12月までの取引記録
平成27年 2月26日 (木)	短大部門の取引記録
平成27年 3月 9日 (月)	平成27年2月までの取引記録

## (6) 教職員の異動状況

26年度に採用及び退職された教職員数の詳細は以下のとおりです。

### 1) 採用

#### <短期大学>

講師	2名 (新規採用)
助教	3名 (新規採用)
特任准教授	1名 (再雇用)
特任講師	1名 (新規採用)
本務職員	1名 (任用替)
嘱託職員	1名 (新規採用)
非常勤職員	1名 (新規採用)
計	10名

#### <中・高等学校>

教諭	4名 (新規採用3名、任用替1名)
常勤講師	1名 (新規採用)
講師	3名 (再雇用)
A L T	1名 (新規採用)
講師嘱託	4名 (新規採用)
非常勤講師	1名 (新規採用)
本務職員	1名 (任用替)
計	15名

学苑合計 25名

### 2) 退職

#### <短期大学>

教授	1名 (完全退職)
助教	2名 (完全退職)
計	3名

#### <中・高等学校>

管理職	4名 (完全退職1名、再雇用3名)
教諭	7名 (完全退職2名、再雇用5名)
講師嘱託	1名 (再雇用)
非常勤講師	5名 (完全退職)
本務職員	1名 (再雇用)
嘱託職員	1名 (完全退職)
非常勤職員	2名 (完全退職)
計	21名

学苑合計 24名



辞令交付式 (採用) の様子  
平成26年4月1日



辞令交付式 (退職) の様子  
平成27年3月31日

## 高田短期大学

### I. 時代・社会の変化に即応した取り組み

#### (1) 学士力向上を目指した教育課程の展開

##### 1) 三つのポリシーの見直しと、カリキュラムマップ、履修マップの作成

ディプロマポリシー（学位授与方針）については、4つの観点（関心・意欲・態度、知識・理解、技能・表現、思考・判断）を踏まえ見直しました。またそれに基づいて、カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）、アドミッションポリシー（入学者受け入れ方針）についても見直し整合性を図りました。

各授業科目の到達目標とディプロマポリシー（学位授与方針）に記す学修到達目標（学修成果）との関連は「カリキュラムマップ」によって明示し、学修の段階や順序、教育課程の体系性については「履修マップ」によって明示しました。

##### 2) 共通教養科目の開設に向けて

これまでディプロマポリシー（学位授与方針）の「共通到達目標」に対応する全学共通科目は「仏教学Ⅰ」「仏教学Ⅱ」のみとなっていました。地域社会が求める社会人としての基礎能力修得のための全学共通科目について今年度前期に検討を重ねました結果、次年度から子ども学科とキャリア育成学科ともに共通する「共通教養科目」として12科目（下記に列記）を配置します。これ各学科が独自に教養科目を開設してきましたが、次年度からは二学科共通の教養科目が設置され、共通の「到達目標」が設定されることになりました。

##### 共通教養科目一覧

仏教学Ⅰ、仏教学Ⅱ、仏教福祉、法学（日本国憲法）、環境学、情報基礎演習、英語コミュニケーション、スポーツと健康（講義）スポーツと健康（実技）、日本語表現、海外英語研修指導、海外英語研修

##### 3) 完成年度を迎えたキャリア育成学科

昨年度開設したキャリア育成学科が今年度に完成年度となり、後期の授業開始で全科目の開講が完了しました。開設以来、大きな不備や事故もなく当初の予定どおり円滑な運用することができています。

##### 4) Webシラバス導入の経過報告

今年度よりシラバス（授業計画）を冊子形態の紙媒体からWeb上のデジタル媒体へと変更しました。これからも学生の利便性がさらに向上するよう改善に取り組んでいきます。

#### (2) 主体性・協調性を育む短大生活支援

##### 1) 新入生宿泊研修

2年間の短大生活を有意義に過ごすため、新入生オリエンテーション行事の締めくくりとして宿泊研修を実施しました。高田短期大学生として自立心、協調性を養うとともに、学生・教員相互の理解と親睦を深める研修目的を参加者全員が自覚し、取り組むことができました。

日 時：4月24日（木）～25日（金）1泊2日

会 場：COCOPA RESORT CLUB 白山ヴィレッジゴルフコース（津市白山町川口6262）

参加者：1年生及び教員全員、関係職員

内 容：学長講話、子ども学科「すてきな保育者になるために」「つくって、あそんで、みせて2014」、キャリア育成学科「グループワーク〈先生にインタビュー〉」、レクリエーション、パターゴルフ等



## 2) 学生自治会主催イベント

本学伝統の自治会活動では、2年生の執行部役員に加え、1年生から学生自治会サポートメンバーを募り、各学生が自らの役割を考えて行動し、課題を解決していく「異学年共同コミュニティ」の形成を目指しています。自治会活動を教職員が支え、年間を通して種々の行事を企画実施しました。

### ① 学生生活相談会

日 時：4月7日（月）～4月11日（金）

場 所：2号館1階ロビー前

内 容：新年度開始直後の1週間に自治会執行部役員によるブースを設け、科目履修、部活動、アルバイト、就職活動等について新入生の相談に応じました。

### ② バーベキュー大会

日 時：5月17日（土）12:00～16:00

場 所：本学馬場跡地

内 容：学生の親睦を深めるため、野外バーベキューとゲーム大会を行いました。

当日は、約320名の学生・教職員が参加し、大盛況の催しとなりました。



③ ランチタイムコンサート

日 時：第1回 5月26日（月）昼休み

第2回 1月20日（火）昼休み

場 所：本学カフェテリア内特設ステージ

内 容：ポップス吹奏楽部による演奏を行いました。



④ 第49回高短祭

日 時：10月25日（土）・26日（日）

内 容：今年度は天候にも恵まれ、二日間を通しての一般来場者数は1,500人を超え、学生自治会執行部が中心となり全学生で協力し、大いに盛り上がった大学祭となりました。

また、各種イベントの充実を図るため、屋外メインステージにステージトラックを導入しました。



⑤ TJC祭（スポーツ大会）

日 時：1月17日（土）

場 所：体育館

内 容：卒業間近の2年生が後輩に高短の伝統を引き継ぐ節目の行事として、参加者全員が体を動かすことで真冬の寒さに挑みました。



⑥ 食堂抽選会

日 時：第1回 10月31日（金） 第2回 1月23日（金）

内 容：今年度より短大カフェテリアにおいて抽選会を開催しました。

食堂の利用学生を増やす目的で、(株)フレンドと共催という形で食堂のメニューを注文した学生に抽選券を配布し、週末の昼休みに抽選会を行いました。

3) 生活講座

日 時：7月7日（月）14：40～16：10

場 所：本学1号館4階 講堂

参加者：約260名

内 容：テーマ①「学生の健康管理について」 「知っておきたい感染症」

講 師 保健担当 富永 礼子

## 「明日の自分について考える」

講 師 キャリア育成学科 特任准教授 橋本 景子

### テーマ②「命の大切さを学ぶ教室」

講 師 公益社団法人みえ犯罪被害者総合支援センター顧問  
いのちの言葉プロジェクト代表  
交通事故被害者遺族 鷲見 三重子 氏



#### 4) 奨学金制度について

キャリア育成学科介護福祉コース学生を対象にした高田短期大学介護福祉士就労予定者奨学金は1年生17名、2年生22名に、また、子ども学科学生およびキャリア育成学科オフィスワークコース学生を対象とした高田短期大学奨学金制度では1年生20名、2年生13名に支給しました。日本学生支援機構奨学金は1年生85名、2年生74名が受給しています。その他に学外の各種奨学金の紹介、受給申請手続き等の支援にも努めました。

### (3) キャリア教育・キャリア支援の充実

#### 1) キャリア教育の推進

各学科・コースの特色に応じて、教養科目・専門科目の各授業と進路ガイダンス、プレ就職講座、就職講座を関連づけ、キャリア教育を推進しました。

○25年度入学生（2年生）			
子ども学科	就職講座	7回実施	
キャリア育成学科			
オフィスワークコース	就職講座	7回実施	
介護福祉コース	就職講座	4回実施	
○26年度入学生（1年生）			
子ども学科	進路ガイダンス	4回実施	就職講座 7回予定
キャリア育成学科			
オフィスワークコース	プレ就職講座	6回実施	就職講座 6回予定
介護福祉コース	プレ就職講座	1回実施	就職講座 4回予定

※公務員試験・教養試験対策講座受講者数（外部講師）

	23年度	24年度	25年度	26年度
1年生	97人	85人	87人	94人
2年生	47人	45人	26人	37人

25年度入学生（現2年生）は、3月12日から 7月15日まで15回実施

26年度入学生（現1年生）は、9月17日から12月16日まで15回実施

※本年度より、公務員試験対策・保育専門対策講座を実施しました。

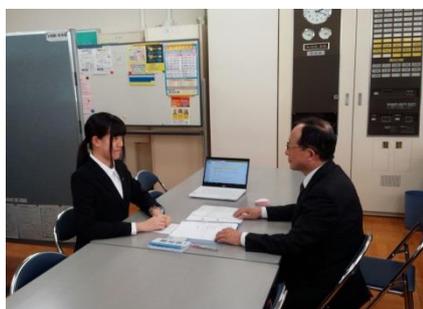
外部講師：5月10日（土）～7月26日（土） 8回実施

本学教員：8月21日（木） 2回実施

受講者：子ども学科2年生 42名

## 2) 求人開拓の取り組みと学生への支援

今年度からキャリアカウンセラー1名を配置し、学生の進路相談、就職活動における支援をさらにきめ細かく実践しました。



## 3) 早期離職の防止対策と卒業生への支援

平成25年度キャリア育成学科オフィスワークコース卒業生のうち2名は未就職のまま卒業しましたが、継続して支援を行った結果うち1名は5月に就職することができました。

転職相談などのために平成26年度にキャリア支援センターを訪れた卒業生は46名でした。平成25年度が34名でしたので35%の増加です。本学HPでの案内のほか、卒業生間の口コミで来室した学生も多く見られました。

就職を間近に控えた2年生に対する早期離職防止の講座については、外部講師を招いて二学科合同で2月18日（水）に実施しました。なお、卒業時試験と重なったキャリア育成学科介護福祉コースについては外部講師により2月2日（月）に実施しました。

## 4) 「キャリアカルテ」の活用による教職協働の推進

就職支援システム「キャリアカルテ」を核としたWebサイト上のネットワークである「高短キャンパスネット」の学生、教職員双方の積極的な活用を進めています。平成25年度の教職員の書き込み件数は3,028件でしたが、平成26年度は4,355件になり44%の増加でした。

# (4) 学生募集と高大交流事業

## 1) 高大教育交流事業

今年度の交流事業の実施内容は下記のとおりです（協定校12校および高田高等学校での実績）。

①出張ガイダンス（※協定校へ出向いて学校ガイダンスを行う）

月日	曜	時間	高校名	出席者	形式	対象	参加者
4月30日	水	13:10~14:25	白子	藤山・竹内	学校別説明会	3年	23
5月10日	土	14:45~15:45	久居	藤山	学校別説明会	保護者	13
5月14日	水	12:50~14:15	いなべ総合学園	梶間	職業別説明会（幼児教育・保育）	1年	64
		15:30~16:15			学校別説明会	1~3年	19
6月2日	月	14:15~15:20	四日市四郷	竹内	学校別説明会	3年	11
		15:30~16:30			放課後ガイダンス	1~2年	16

7月3日	木	12:30~13:30	亀山	藤山	入試説明(AOに関する説明)	1~3年	14
7月4日	金	12:45~15:05	高田	藤山	学校別説明会(教育・保育)	2年	93
				杉浦・岡田	学校別説明会(社会科学)		42
7月8日	火	11:55~12:45	明野	藤山	学校別説明会	3年	3
7月9日	水	13:15~15:05	四日市西	鷲尾	分野別説明会(経理と事務)	2年	8
7月16日	水	10:00~14:30	津商業	藤山・竹内	学校別説明会	2年	13
9月24日	水	12:30~16:30	いなべ総合学園	藤山	校内分野別説明会(保育)	1年	48
10月22日	水	13:40~15:30	相可	藤山	分野別説明会	1年	59
11月5日	水	14:40~15:35	松阪商業	竹内	系統別説明会(保育・幼児教育)	2年	11
12月10日	水	11:40~12:45	明野	竹内	分野別説明会(保育・幼児教育)	2年	7
12月15日	月	10:55~12:45	亀山	梶間	職業理解(保育系)	2年	48
12月15日	月	11:10~12:40	四日市四郷	藤山	進路ガイダンス	2年	4
12月15日	月	13:30~14:20	明野	竹内	進路ガイダンス (保育・幼児教育)	1・2年	19
12月17日	水	11:30~12:35	津商業	竹内	進路ガイダンス(経理・事務)	2年	5
12月17日	水	14:15~15:05	四日市西	藤山	職業理解(保育・幼児教育)	1年	23
1月14日	水	14:40~15:30	相可	竹内	分野別説明会(保育・幼児教育)	2年	22
1月28日	水	14:15~15:20	四日市四郷	水野	職業別説明(幼児教育・保育)	1年	24
		15:45~16:45		竹内	職業別説明(経理・事務)	1年	17
					学校別説明	1・2年	5
2月14日	土	12:05~12:55	四日市商業	竹内	職業別説明会(幼児教育・保育)	1年	18
2月18日	水	13:30~15:30	白子	竹内	学校説明	1・2年	35
2月20日	金	15:00~16:05	いなべ総合学園	藤山	分野別説明会(保育・幼児教育)	1・2年	11
3月6日	金	10:40~12:30	松阪商業	藤山	進路ガイダンス	2年	26
3月9日	月	11:15~11:45	明野	竹内	分野別説明会(福祉)	2年	2
3月17日	火	10:50~12:20	亀山	藤山	学校別説明	2年	20

②出前・模擬授業(※協定校へ出向いて出前・模擬授業を行う)

月日	曜	時間	高校名	出席者	形式	対象	参加者
5月28日	水	15:50~16:50	相可	千草	保育系出前講座「心理学入門」	1~3年	28
6月25日	水	13:00~14:30	四日市四郷	杉浦	マナー講座	3年	240
7月4日	金	11:00~12:25	津商業	稲田	保育講座	2年	14
7月10日	木	8:50~10:40	四日市西	青木	出張講座「幼児期の遊び」	3年	31
9月4日	木	8:50~10:40	四日市西	千草	出張講座「心理学入門」	3年	30
9月5日	金	15:45~16:35	松阪商業	岡田	出前講座 「進学・面接時のポイント」	3年	40
10月3日	金	15:45~16:35	松阪商業	岡田	出前講座	3年	40

					「現代社会の問題点」		
10月21日	火	13:50~15:20	相可	福西	保育系模擬授業	3年	9
11月5日	水	13:25~15:15	白子	藤重	模擬授業（保育）	1年	23
				田中	模擬授業（経理・事務）		5
		13:25~15:00	白子	杉浦	ビジネスマナー講習	3年	312
11月26日	水	13:00~14:30	四日市四郷	野呂	新社会人（ライフプラン）講座	3年	238
12月10日	水	15:50~17:00	宇治山田商	鷺見	保育系模擬授業	2年	18
12月16日	火	9:55~11:45	亀山	藤重	保育系出前講座	3年	22
12月17日	水	13:25~15:05	四日市西	青木	模擬授業（保育）	2年	20
12月18日	木	11:40~12:25	津商業	林	職業別体験授業 （幼児教育・保育）	1年	22
1月26日	月	9:30~11:20	亀山	徳山	福祉系出前講座	2年	7
2月18日	水	13:30~15:00	久居	大野	模擬授業	2年	14

③特別講座・授業見学・施設見学など（本学の講義に出席、本学の施設・設備見学）

月日	曜	時間	高校名	形式	対象	参加者
6月21日	土	13:30~15:30	高田	特別講座 子ども学科 「乳児の特徴と援助」（長倉）	2~3年	54
				特別講座 オフィスワークコース「広告デザイン入門」（川喜田）		13
				特別講座 介護福祉コース「福祉用具を活用した介護技術」（徳山）		6
6月24日	火	13:30~15:30	相可	学校見学・学生との交流（「保育実践」選択生）	3年	11
7月17日	木	10:30~14:15	四日市四郷	学校見学、特別授業（柳瀬、川喜田）	1~3年	13
7月23日	水	9:30~11:50	白子	進路ガイダンス（藤山）、特別授業①（柳瀬・水野、鷺尾）	2年	25
7月24日	木	9:30~12:00		特別授業②（藤重、川喜田）、特別授業③（福西、杉浦）		
12月12日	金	9:40~10:30	四日市四郷	学校見学会、模擬授業（中川）	2年	20
12月25日	木	13:30~15:10	高田	特別講座 子ども学科 「教育原理」「保育者論」への誘い（寶來）	2年	14
				特別講座 オフィスワークコース「広告デザイン入門」（川喜田）		13
				特別講座 介護福祉コース「福祉用具を活用した介護技術」（徳山）		5
3月23日	月	13:00~14:30	高田	特別講座 子ども学科 「紙のおもちゃづくり」（林）	2年	19
				特別講座 オフィスワークコース 「マーケティングの基礎知識」		22
				特別講座 介護福祉「加齢とは」		7



## 2) 高大教育交流連絡協議会

今年度は以下のとおり協議会を実施しました。

第1回 7月1日(火) 14:45~16:00

実施内容: 平成27年度入試  
教育交流事業報告等

第2回 10月14日(火) 15:00~17:00

実施内容: キャリア教育について等

第3回 1月26日(月) 15:00~17:00

実施内容: 入学前教育について  
交流締結期間の変更について



## 3) 高田高等学校との意見交換会

5月14日に、同学苑の高田高等学校の3年生担任および進路指導関係教員21名に来学いただき、会食ならびに意見交換、質疑応答、学内見学などを行いました。



## 4) オープンキャンパス実施結果

第1回 6月15日(日) 13:00~16:45

第2回 7月19日(土) 13:00~16:45

13:00~13:25 全体説明会

13:30~16:45 各学科・コース説明・体験・相談

参加者数

	第1回 (6 / 15)	第2回 (7 / 19)	合計
子ども学科	185名	190名	375名
キャリア育成学科 オフィスワークコース	48名	56名	104名
キャリア育成学科 介護福祉コース	17名	10名	27名
計	250名	256名	506名



5) 進学相談会の実施結果

7月 5日 (土) 13:00~15:00

子ども学科 (会場: 121教室)

13:00~15:00 個別・グループ別相談会

随 時 学内見学

キャリア育成学科オフィスワークコース (会場: 第6演習室)

13:00~15:00 個別相談会、学内見学

キャリア育成学科介護福祉コース (会場: 介護実習棟)

13:00~15:00 個別相談会、学内見学

参加者数

子ども学科	18名
キャリア育成学科 オフィスワークコース	1名
キャリア育成学科 介護福祉コース	3名
計	22名



6) 高短フェア (プレ・オープンキャンパス) の実施結果

高校1年生および2年生を対象としたプレ・オープンキャンパス「高短フェア」を3月に開催しました。早い段階から本学を知ってもらうためのイベントとして、各高等学校の定期試験終了後の時期



に開催しました。本年度で3回目を迎え、内容は、各学科・コース別体験コーナー、相談コーナー、入試相談コーナーなど、本学体育館内にブースを作り、実施しました。

日 時：平成27年 3月7日（土）

13：00～15：00

参加者：115名



## （5）自己点検・評価活動

（財）短期大学基準協会による第二サイクルの第三者認証評価を受けました。

第三者認証評価は、短期大学が自ら全体を見渡して、体系的な自己点検・評価ができるよう7年に一度義務づけられています。

昨年度より自己点検・評価委員会において、栗原学長を中心に報告書作成の準備を進め、6月に短期大学基準協会へ資料と共に提出し、9月9日（火）、10日（水）の2日間に渡り基準

I～IVおよび選択的評価基準について訪問調査を受けました。基準Iのテーマは、「建学の精神と教育の効果」で、短期大学の教育の成果と質保証の在り方が焦点となっています。

基準IIのテーマは、「教育課程と学生支援」で、学習成果の獲得のために提供される教育や支援の状況が焦点となっています。

基準IIIのテーマは、「教育的資源と財的資源」で、教育研究活動や短期大学組織を支える人的・物的・財的資源の在り方が焦点となっています。

基準IVのテーマは、「リーダーシップとガバナンス」で、法人全体を統制する仕組みの在り方が焦点となっています。

選択的評価基準のテーマは、「教養教育の取り組み」、「職業教育に取り組み」、「地域貢献の取り組み」についての3項目で、短大の個性を伸ばさせることを目的として設定されています。

ピア・レビューの精神のもと、短期大学の向上・充実に資する観点から「特に優れた試み」、「向上・充実のための課題」、「早急に改善を要すると判断される事項」の3点を踏まえて、基準ごとに調査を受けた結果、3月12日付けで機関別評価の決定通知があり、すべての基準において適格と評価されました。



## II. 地域への社会貢献事業

### （1）高田短期大学公開講座

#### 1) 「海外旅行のための英会話」

日 時：7月6日（日）

場 所：2号館大講義室

参加者：39名

受講料：無料

講 師：キャリア育成学科 教授 畠山 義啓

内 容：日本と外国の文化の違いなど海外旅行に役立つ知識や、旅行中によく使う英会話の例文を学んでいただきました。



## 2) 「子どもの社会化と家族のカタチ」

日 時：7月27日(日)

場 所：図書館

参加者：4名

受講料：無料

講 師：子ども学科 助教 寶來 敬章

内 容：家庭環境の変化から現在の大学生たちがどのような考え方をするようになったのか、学生と接する中で気づいたことなどを交えながら、話していただきました。



## 3) 「デジカメ写真の管理と活用」

日 時：9月6日(土)

場 所：3号館PC教室I

参加者：30名

受講料：無料

講 師：キャリア育成学科 教授 鷲尾 敦

内 容：デジカメで撮影した写真データの管理や簡単な編集方法など、実際に役立つ知識を学んでいただきました。



## 4) 「身体機能の向上と認知症予防について～さまざまなレクリエーションの体験～」

日 時：9月20日(土)

場 所：介護実習室

参加者：13名

受講料：無料

講 師：キャリア育成学科 助教 徳山 貴英

内 容：認知症の知識や予防に必要なことを学んでいただき、認知症予防に効果のあるレクリエーションに挑戦していただきました。



## (2) 教員免許状更新講習

昨年度に続き文部科学省の認可を受け、主に幼稚園教諭のための免許状更新講習を開催しました。

日程及び講師等の詳細は、「Mie 保育士人材バンク」に同じです。

受講者：各講座49名(定員40名)



## (3) Mie 保育士人材バンク「takada-jc」

県内の保育士養成校の卒業生を中心に保育士資格等を有していながら現在保育士として就業していない潜在保育士に対して、研修を提供しスキルアップを図り、子どもの視点に立った保育人材を育成し、再就職を支援する人材バンクです。また、保育士資格を有し、現在働いている方へ保育指針を踏まえたスキルアップの場を提供しています。今年度も教員免許状更新講習会等に合わせ、登録された保育士等に次の研修会を実施しました。

11月 3日(祝) 講座① 乳幼児期の発達と主な障害の理解

講師：子ども学科長・教授 千草 篤磨

11月 9日(日) 講座② 幼児教育と保育者の専門性

講師：子ども学科 助教 寶來 敬章

11月16日(日) 講座③ 子どもの表現活動と教育方法

講師：子ども学科 教授 福西 朋子

参加費：無料

受講者：延べ21名（定員 各講座とも40名程度）

#### (4) みえアカデミックセミナー2014 ～心豊かな人生へのアクセス～

日時：8月9日（土）13：30～16：10  
場所：三重県総合文化会館1F レセプションルーム  
講演：キャリア育成学科 介護福祉コース  
挨拶：子ども学科・キャリア育成学科 介護福祉コース長  
千草 篤磨  
司会：事務局



13：00 受付開始  
13：30～13：40 開会挨拶  
13：40～14：40 講演①「超高齢社会を自分らしく生きるための心構え」  
キャリア育成学科 准教授 福田 洋子  
14：40～14：50 休憩  
14：50～15：50 講演②「超高齢社会を自分らしく生きるための  
身体づくり」  
キャリア育成学科 特任講師 中川 千代  
15：50～16：10 質疑応答  
16：10 終了



介護福祉をテーマに、「超高齢社会を自分らしく生きるための心構えと身体づくり」について講座を開催しました。

当日は、台風11号の影響で、事前キャンセルが相次ぎ、参加者は、一般39名、本学教職員5名の計44名と大幅な変更を余儀なくされましたが、参加者は、介護の在り方や課題等について積極的に質問を投げかけたり、意見を述べるなど介護福祉への関心の高さを感じられたのが印象的でした。また、認知症予防のためには、家事など日常の動作が訓練になるとされ、実際に簡単な体操を行ったり、グループに分かれて折り紙を使ったゲームをするなど、超高齢社会を健康で、明るく過ごすための楽しいレクリエーションの紹介があり、好評のうちに終了しました。

日時：平成27年2月7日（土）13：00～15：00  
場所：多気町 町民文化会館  
講師：キャリア育成学科 特任准教授 橋本 景子  
演題：「今、子どもたちに必要な力とは 一大切なこと、間違えていませんか」  
参加費：無料  
参加者：24名

#### (5) 大学サロンみえ

「大学サロンみえ」は、県（三重県政策部企画室）が主催し、県内の各高等教育機関と連携して、地域の発展をめざすもので、主に三重県知事の要請により、県の人口減少対策に関する効果的な取組を検討するため、県内高校生に向けた高等教育機関の魅力発信などについて県内高等教育機関の長との意見交換会を3回実施しました。また、高等教育機関と地域との連携促進にあたり、「連携促進ワーキンググループ」を立ち上げ、地域活動情報を一元化する仕組みづくりを進めています。

## (6) 大学ポートレートによる情報公表

今日、大学における教育の質の保証・向上や国内外の大学間連携等の観点から、大学が自らの教育活動の状況を公表し、情報発信を進めることが強く要請されています。大学ポートレート（私学版）は、私立の大学、短期大学、高等専門学校が、その特色や特色を実現するために実践している教育研究の取り組みを、進学希望者や保護者、進路指導者などに広く発信することで、各学校の魅力や強みをより一層社会に伝える魅力発信の場として開設され、平成26年度から本格展開を図ることとなりました。本学もこれに参加し、情報を公表しました。

## (7) 「三重県私立高等教育機関の包括的連携に関する協定」の締結

－「コンソーシアム三重」を設立し、県内私立8高等教育機関連携の新たな取り組みを開始－

12月12日（金）、四日市大学、四日市看護医療大学、鈴鹿医療科学大学、鈴鹿国際大学、皇學館大学、鈴鹿短期大学、高田短期大学及び近畿大学工業高等専門学校の5大学・2短期大学・1高等専門学校は、大学間包括的連携の協定を締結いたしました。

これにより、三重県私立高等教育8機関が県内の新たな高等教育機関の魅力向上を形成するため、自主自立を尊重しつつ高等教育機関相互の連携を図るとともに、『三重県私立高等教育機関 コンソーシアム三重』を組織し、地域社会及び産業界等との連携を深める役割を担い、教育研究交流、人材育成、情報発信、社会貢献等により、高等教育の機能強化及び地域社会の発展に寄与し、各高等教育機関の新局面への取り組みを行います。



最初の取組として、「研究機関における公的研究費の管理・監査の実施基準」（平成19年2月15日文科科学大臣決定）が平成26年2月18日に改訂され、機関においてコンプライアンス教育が義務化されたことに関して、8機関合同のFD・SD研修会を開催しました。

研修終了後、参加者からは研究倫理についての認識が深められたとの意見が多く聞かれ、大変有意義な研修会となりました。

日 時：平成27年2月16日（月）14：00～16：00

場 所：津駅前 アスト津4Fアストホール

講 師：有限監査法人トーマツ シニアマネージャー 赤尾 聡氏

内 容：公的研究費ガイドラインに関するコンプライアンスについて

参 加 者：コンソーシアム三重加盟校の教職員194名（本学27名）



### Ⅲ. 各学科による取り組み

#### ●子ども学科

##### (1) 家庭教育支援コーディネーター養成講座（基礎コース）

津市との共催事業で、地域での子育てや家庭教育を支援するコーディネーターの養成基礎コースの講座をつぎのとおり実施しました。実践コースは別途津市が実施します。

場 所：津市中央公民館

内 容：7月 2日（水）「子育てとコミュニケーション」（非常勤講師 稲田 直子）

7月 9日（水）「子どものからだ育てと運動遊び」（助教 柳瀬 慶子）

7月16日（水）「子どもの発達・発達と食生活」（教授 鷲見 裕子）

7月23日（水）「子育てと歌・歌遊び」（教授 福西 朋子）

7月30日（水）「乳幼児期の心の発達」（教授 千草 篤麿）

##### (2) 子ども学科年報発行

2月に「子ども学科年報」第9号を発行しました。平成7年に「幼児教育学科年報」として創刊されて以来、今年度発行の年報は、通巻として20号を数えることになりました。「教員の研究活動と教育活動の向上」を目的に刊行されてきた年報ですが、20年の流れの中で一応の成果を上げ、その役割を終えたと判断し、今号をもって廃刊することとしました。今後は、大学のホームページや育児文化研究センターの刊行物などを充実させていくこととします。

#### ●キャリア育成学科 オフィスワークコース

##### (1) スキルアワード

学生の資格取得を応援するため、資格取得に努力し、良い成績をあげた学生を各学年で学期ごとに表彰しています。資格レベルによって「★」の数を設定し、合格した資格に応じた「★」の数を集計し、「★」の数をたくさん取得した学生に優秀賞を、特に難しい検定に合格した学生に特別賞を与えています。

また、オフィスワーカーとして必要な能力を身につけたことを証明するコース認定制度を設け、指定した複数種類の検定に合格した学生を、「オフィスマスター」として認定しています。

また、オフィスマスターをベースに特定分野の難しい資格を取得した学生を「オフィススペシャリスト【各分野】」として特定分野に強いオフィスワーカーとして認定しています。

全員がオフィスマスターを取得することを学科の目標としています。

###### 1) 平成25年度後期の表彰（現2年生）

4月7日（月）、2年生前期スキルアワード表彰式を行いました。平成25年度後期の資格取得状況をもとに、優秀賞15名、特別賞4名を表彰し、オフィスマスター22名、オフィススペシャリスト5名を認定しました。



優秀賞取得学生



オフィスマスター認定学生



## (2) 各種検定の学内実施

### 1) ワープロ検定

7月5日(土)に、日本情報処理検定協会主催の第99回情報処理技能検定(ワープロ)を、本学PC1教室にて実施しました。今回は初段2名、1級7名、準1級8名、2級31名、準2級40名、3級3名受験しました。

### 2) 表計算検定

7月13日(日)に、日本情報処理検定協会主催の第97回情報処理技能検定(表計算)を、本学PC1教室にて実施しました。今回は初段1名、1級4名、2級48名、3級9名が受験しました。

### 3) 秘書検定

6月21日(土)に、秘書技能検定を本学で実施しました。2級を61名が受験しました。

### 4) P検(ICTプロフィシエンシー検定)

7月23日(水)、P検(ICTプロフィシエンシー検定試験)を実施しました。前期は、対応する授業がないこともあり、準2級を1名のみの受験でしたが、見事合格しました。

## (3) フレンテトーク

6月26日(木)、「キャリアデザインI」において、三重県男女共同参画センター フレンテみえの前所長柏木はるみ氏に講演をしていただきました。講演テーマは「キャリアデザインの描き方～男女共同参画の視点を持つ～」です。

男性・女性の就労や生活について、世界の中の日本、日本の中の三重県の状況を学びました。講義終了後は、学生から「女性の社会進出が進むと出生率がさらに下がるのではないか」「子どもを生き育てながら就労している比率が高い国と日本との違いは何か」「日本のジェンダー指数が低いのはどうしてか」などの質問が投げかけられ、一つひとつ丁寧に回答いただきました。



## (4) 地域連携—平成26年度第1回シニアパソコン教室

7月6日(日)、第1回シニアパソコン教室を本学PC1教室で開催しました。60代から80代までのシニアの受講生19名が参加し、マウス操作やキーボード入力などの基本からインターネットの利用までを学びました。昨年に引き続き、津市中央公民館との共同開催で、特徴として、個々の質問に対応できるよう各受講者に一人の支援スタッフを配置しました。スタッフは、「情報ボランティアみえ」の方々とオフィスワークコース1年生が担当しました。

終了時には、満足された受講者の皆さんから多くの感謝の言葉を頂きました。次回は、学生が主に講師役をする予定です。この活動については、高短祭で展示する予定です。



スタッフ打合せ



教室の様子



学生の支援の様子



教室の全体風景



スタッフ反省会



スタッフ記念撮影

## (5) 社会体験実習の実施

今年も夏期休業中を利用して約10日間にわたる「社会体験実習」に多くの学生が参加しました。若年者就業対策の一環としてインターンシップ事業が活発化し、参加する大学生も増加傾向にありますが、本学オフィスワークコースの社会体験実習は16年の歴史を積み重ねており、またインターンシップとは異なる独自の就業体験プログラムを構築しています。

今年度は、61名の学生が履修し、官公庁・公民館・自動車販売店・ホテル・百貨店・パソコン教室などの県内23事業所27ヶ所に分かれて実習を体験しました。本年度は、新たに8事業所を開拓しました。9月25日には、実習での体験内容や学んだこと、自分の学習課題などについて「社会体験実習報告会」を実施しました。また、10月23日には学生を指導していただいた事業所の担当者を招いて「社会体験実習反省会」を開催しました。



## ●キャリア育成学科 介護福祉コース

### (1) コミュニティカレッジ

#### 「介護技術講習会」

例年同様、介護福祉士国家試験の実技試験免除のための講習会である「介護技術講習会」を本学介護実習施設において実施しました。受講者は介護業務に3年以上従事した方で、24名が講習を修了しました。

開催日：5月24日（土）、25日（日）、6月7日（土）、8日（日）

指導者：キャリア育成学科准教授 福田 洋子（主任）

キャリア育成学科助教 徳山 貴英

キャリア育成学科特任講師 中川 千代

特別養護老人ホーム報徳園主任 田中 里香氏

### (2) 平成26年度日本介護福祉士養成施設協会東海北陸ブロック教員研修会

本学を会場として、東海北陸地区の介護福祉士を養成する大学、短大、専門学校の教員を対象とした研修会を次のとおり開催しました。

開催日：6月28日（土）、29日（日）

参加者：教員100名 学生・一般230名

開会式：栗原 廣海実行委員長（高田短期大学学長）挨拶ほか

基調講演：「改めて介護（労働）および介護福祉（労働）の本質を問う」

講師：京都女子大学家政学部生活福祉学科教授 石田 一紀氏

シンポジウム：「今、求められる介護福祉士養成教育

－介護現場が求める養成教育、

養成校が求める介護の現場－」

高林 光暁氏（特別養護老人ホーム高田光寿園施設長）



世古口正臣氏（特別養護老人ホーム美里ヒルズ施設長）  
落合 将則氏（小山田老人保健施設施設長）  
大田 京子氏（三重県介護福祉士会会長）  
伊藤 幾代氏（ユマニテク医療福祉大学校学科長）  
千草 篤麿（高田短期大学教授・コーディネーター）  
総会、懇親会、分科会、閉会式



## IV. 地域連携施設

### ● 仏教教育研究センター

#### （１）研究会の開催

・ 研究テーマ：「真慧上人著『顕正流義鈔』の研究」

高田派中興の祖である真慧上人が著された『顕正流義鈔』の研究書を  
発刊することを目的に毎月1回研究会を開催しています。



#### （２）仏教教育研究センター公開講座（高田本山教学部 共催）

地域の方々に仏教に触れる機会をご提供することを目的に、高田本山教学部との共催にて、真宗高田派本山にて開講します。

第1回 日 時：6月20日（金）13：30～15：30

題 目：「親鸞聖人の思索と表現～和讃をめぐって～」

講 師：明通寺住職、当研究センター研究員 佐波 真氏

受講者：18名

第2回 日 時：11月22日（土）13：30～15：30

題 目：「仏教再発見～専修寺伽藍の特色～」

講 師：四日市大学非常勤講師、当研究センター主任研究員 北島 恒陽氏

受講者：25名

※いずれも受講料は無料



#### （３）仏教基礎講座（高田本山寄附講座）

高田本山からの寄附を基に実施する講座で、仏教や真宗に関する基礎的な内容に加え、真宗高田派の歴史や法宝物に関する知識を学んでいただきました。

日 時：8月18日（月）～8月22日（金） 9：00～17：50

対 象：寺族及び一般者

受講料：無料（但し、テキスト代は実費負担）

教科・講師：

「仏教学」 本学学長、当研究センター研究員 栗原 廣海

「仏教史」 本学特任教授、当研究センター長 金信 昌樹

「真宗学」 高田中・高等学校教諭、当研究センター主任研究員 松山 智道

「真宗史」 本学・龍谷大学非常勤講師、当研究センター研究員 清水谷 正尊氏

「高田の歴史と法宝物」 真宗高田派本山専修寺宝物館主幹、当研究センター研究員 新 光晴氏

受講者：37名（教師検定講習受検者16名、一般21名）



#### (4) 仏教専門講座（高田本山寄附講座）

仏教基礎講座と同じく高田本山からの寄附を基に実施するもので、仏教や真宗に関するより専門的な知識を年間10回の講座（11回目として試験日あり）で学んでいただきます。講座科目は隔年で内容が変わり、全10科目（隔年で5科目）を開講します。この講座は、文部科学省の履修証明制度に則った「履修証明プログラム」として開講し、全10科目の講座を修了された方には学校教育法第105条に基づいた履修証明書を交付しました。

日 時：4月18日（金）、5月30日（金）、6月27日（金）、7月25日（金）、9月26日（金）、  
10月31日（金）、11月28日（金）、12月19日（金）、1月30日（金）、2月27日（金）、  
3月6日（金）

9時00分～17時50分（50分の昼休憩あり）

対 象：寺族および一般（真宗高田派の教学を学びたい方）

受講料：無料（但し、テキスト代は実費負担）

教科・講師：

「仏教学講読Ⅱ」 本学・龍谷大学非常勤講師、当研究センター研究員 清水谷 正尊氏  
「真宗学概説」 本学学長、当研究センター研究員 栗原 廣海  
「真宗学講読Ⅱ」 本学特任教授、当研究センター長 金信 昌樹  
「真宗学講読Ⅳ」 四日市大学非常勤講師、当研究センター主任研究員 北島 恒陽氏  
「真宗史講読」 龍谷大学非常勤講師、当研究センター研究員 栗原 直子氏

受講者：46名

#### (5) センター蔵書の整備（台帳・所在確認、補修作業）

作業内容 寄贈図書台帳に記載されている書名と実際の蔵書との照合作業、糸綴じ、題簽剥離などの補修作業を行っています。真宗学関係書籍を優先し、その後仏教学関係書籍に対する作業を行います。

### ●育児文化研究センター

#### (1) 育児文化室 地域開放事業「おやこひろば たかたん」

子育て家庭の支援と子育て・子育て支援に関する研究フィールドの「おやこひろば たかたん」は4年目を迎え、津市を中心に地域の方々にご利用いただいています。今年度は、大学開講日以外に月曜日が祝日となった場合は火曜日に振り替えて開催しています。また、学生がゼミ活動やボランティアとして参加し、子育て支援の現場を実践的に学べる場として活用しています。

##### 1) 「おやこひろば たかたん」活動状況と利用者数

開催日時：月曜日・・・0、1歳児

木曜日・・・2歳児以上

10:00～12:00

場 所：育児文化室（1号館2F）

参加対象：未就園児とその保護者

活動内容：年間計画に基づき、月毎の環境設定等をひろば運営会議で検討し、季節の制作コーナーの設置や童謡・唱歌などを保護者の歌として取り組んでいるほか、今年度は毎月1回、「命を守る」防災・事故防止についての活動（非常持出・避難訓練・救急蘇生法等）を行っています。



※平成26年度は、月曜日48回、木曜日48回の計96回ひろばを開設いたしました。



263組の親子、延べ3,934名に利用いただきました。

月	開催日 (○講座日)	テーマ	利用者数	ボランティア支援者
4	(月) 7・14・ <u>21</u> ・28 (木) 10・17・24	親子ひろばに慣れ、楽しんで遊ぶ	子ども:151名 大人:133名 内新規:74組	19名
5	(月) 12・19・26 (木) 1・8・15・ <u>22</u> ・29	季節を感じて、散歩など外遊びを楽しむ	子ども:170名 大人:146名 内新規:34組	18名
6	(月) 2・9・16・ <u>23</u> ・30 (木) 5・12・19・26	梅雨の季節の遊びを見つけ、楽しむ	子ども:232名 大人:202名 内新規:29組	23名+学生8名
7	(月) 7・14・ <u>22</u> ・28 (木) 3・10・17・ <u>24</u> ・31	夏に向けて、身体を鍛える	子ども:185名 大人:163名 内新規:21組	15名+学生23名
8	(月) 4・11・18・ <u>25</u> (木) 7・21・28	夏の遊びを楽しむ	子ども:131名 大人:119名 内新規:14組	12名+学生31名
9	(月) 1・8・16・22・29 (木) 4・11・18・ <u>25</u>	友だち意識がめばえ、学生とも一緒に遊ぶ	子ども:214名 大人:201名 内新規:21組	20名+学生28名
10	(月) 6・13・ <u>20</u> (木) 2・9・6・23・30	秋の風を感じ、戸外遊びを楽しむ	子ども:171名 大人:141名 内新規:12組	19名
11	(月) 4・10・17・ <u>25</u> (木) 6・13・ <u>20</u> ・27	秋の自然に触れて遊ぶ	子ども:171名 大人:153名 内新規:8組	19名+学生2名
12	(月) 1・8・15・ <u>22</u> (木) 4・11・18・25	寒さに負けず、身体を動かして遊ぶ	子ども:160名 大人:145名 内新規:9組	16名+学生49名
1	(月) 5・13・19・26 (木) 8・15・ <u>22</u> ・29	お正月を通して日本の伝統行事、遊びを知る	子ども:160名 大人:143名 内新規:7組	22名+学生26名
2	(月) 2・9・16・ <u>23</u> (木) 5・12・19・26	みんなであそぶって楽しいね	子ども:180名 大人:159名 内新規:14組	24名+学生13名
3	(月) 2・9・16・23 (木) 5・12・26	みんな 大きくなったね	子ども:154名 大人:150名 内新規:20組	17名+学生4名
4月～3月 延べ利用者合計			子ども:2079名 大人:1855名 内新規:263組 総数:3934名	224名+学生184名

※開催日の○は子育て講座日、下線は振替開催日

※「ボランティア支援者」とは一般ボランティア、「学生」とは本学の学生ボランティア（専属職員4名は含まず）

## 2) 子育て講座

ひろば開催日（月1回）にセンター研究員を講師に子育て講座を開いています。

講座日	テーマ	講師	参加者数
4月21日	パンフレット、チラシを使った手づくり絵本	水野潤子	18組
5月28日	子どもの育ちと食	鷲見裕子	11組
6月23日	手作り楽器を作ろう～ふうせん太鼓～	山本敦子	23組
7月22日	皆、寄っといで、ふれあい遊びを楽しもう！	小菅千恵子	19組
8月25日	人形劇サークル「浦島太郎」講演と人形との触れ合い	縁起人	16組
9月25日	いつでも、どこでもできる『ハンカチ遊び』と草花遊び ～子どもの心に届くメッセージを考えよう！～	太田和子	23組
10月20日	病気、けが、こんなときどうしよう？	長倉里加	18組
11月20日	おかあさんからのおくりもの、子どものおもちゃ（手作り楽器）	林 韓燮	19組
12月22日	絵本で遊ぼう！	藤重育子	17組
1月22日	ひろばミニ劇場 「親子で笑顔に！」	ひろばスタッフ	18組
2月23日	創造性を育む表現あそび	秋田 郁	13組



## 3) 子育て相談

子育てに関する心配や不安を相談できる個別対応の子育て相談事業を予約制で行っています。

相談日	相談内容
4/28・5/15・9/29	発達相談 3件
7/7	食事関係 1件
6/26	子育て関係 1件



## 4) ひろば関係研修会

### i 「乳幼児の救急蘇生について」

津北消防署の方から乳児の救急蘇生法について説明を受けた後、救急蘇生法や異物除去の実施体験を行いました。

日 時： 8月21日（木） 13:00～14:30

場 所： 1号館育児文化室

受講者： 本学教職員・運営スタッフ、  
地域ボランティア計17名



### ii 「利用者アンケート結果報告と広場支援について」

今年度のひろば利用者アンケートの結果報告を受け、参加者により子育て支援や「おやこひろば たかたん」の運営方法について意見交換を行いました。

日 時： 1月8日（木）12：30～14：30

場 所： 1号館第4会議室

参加者： 本学教職員・運営スタッフ、  
地域ボランティア計18名



## 5) その他

### i ひろば運営会議

「おやこひろば」運営スタッフと運営委員で構成する会議を毎月1回開催し、ひろばに関する振り返り・課題検討・実施計画等を話し合っています。

### ii 「おやこひろば たかたん」HP

「ひろば開催日」「活動案内」「活動紹介」等、現在の活動や今後のご案内をしています。「活動紹介」はブログ形式で写真とともに、毎ひろば開催日にアップをしています。また、プリントアウトして育児文化室前に掲示しています。

## (2) 研究会

センター研究員の活動の場として定例研究会とグループ研究会を開催しています。

### 1) 定例研究会（年3回開催）

第38回 定例研究会 7月15日（火）16：30～18：00

研 修： 「実践（事例）研究の意義」 講 師 子ども学科長・研究員 千草 篤磨

研究報告： 「幼児の合奏導入のための音楽遊びに関する授業実践研究（2）」

～音のイメージを広げる遊びを中心に～

報告者 山本 敦子研究員



第39回 定例研究会 11月5日（水）16：30～18：00

研究報告：

i 「保育者養成校の授業科目「保育内容」の教育内容に関する研究」

報告者 青木信子・藤重育子研究員

ii 「子育て支援のための基本的生活習慣に関する研究（2）」

—広場利用保護者と支援者の子育て意識の検討—

報告者 鷺見裕子研究員・宮崎つた子氏

iii 「世界の子どもたちの自尊感情を育てる幼児教育のあり方」

—お笑いセンサーとPCを携えて—

報告者 池村進研究員



第40回 定例研究会 2月19日（木）16：30～18：00

研究報告：

i 「子どもの表現活動を通しての学生の学びについて－保育実習・事後アンケートを分析して－」

報告者 秋田 郁 研究員

ii 「子ども・子育て支援新制度の概要と問題点」

報告者 千草篤磨 研究員他

iii 「絵本『どこいったん』を考える」

報告者 藤重育子 研究員

iv 「乳幼児発達研究第2号(1983年)掲載の『どろんこ保育』について」

報告書 千草篤磨・小菅千恵子 研究員



2) グループ研究会

グループ研究①「子育て支援の現状と課題」(9名)

開催日：8/26・9/24・10/29

グループ研究②「子育て支援のひろばについて」(12名)

開催日：6/5・7/28・10/6

グループ研究③「子どもの基本的な生活習慣の発達基準と育児」(7名)

開催日：6/12・7/30・10/14

(3) 子育て応援隊活動

平成24年度からはボランティア支援センターと連携を取りながら活動を行っています。このような地域での活動は、学生の貴重な体験と学びの機会となっています。

No	月日	行事	内容	人数	依頼団体
1	4月13日	花まつり	バルーンアート	4	神辺地区仏教団
2	6月22日	第59回三重県・第44回鈴鹿市母親大会	乳幼児の保育	5	第59回三重県・第44回鈴鹿市母親大会実行委員会
3	7月5日・6日	みえこどもの城 キッズおしごと広場	地域企業のイベント補助	19	三重こどもわかもの育成財団
4	7月11日	高岡ほうりん保育園夏祭り	夏祭りの各コーナー補助	6	高岡ほうりん保育園
5	7月12日	高田保育園夏まつり	夏祭りの各コーナー補助	16	高田保育園
6	7月19日	ほうりん保育園夏祭り	夏祭りの各コーナー補助	6	ほうりん保育園
7	7月19日	しんまち夏まつり	バルーンアートコーナー	7	新町地区自治会連合会
8	7月26日	まつさか幼稚園納涼大会	夏祭りの各コーナー補助	6	まつさか幼稚園
9	8月2日	三重済美学院納涼祭	各コーナーの手伝い	5	三重済美学院
10	8月5日	子育て支援バホバフクラブ	子育て支援	4	高岡ほうりん保育園
11	8月21日	子育て支援バホバフクラブ	子育て支援	5	ほうりん保育園
12	8月26日	子育て支援バホバフクラブ	子育て支援	5	高岡ほうりん保育園
13	8月28日	子育て支援バホバフクラブ	子育て支援	5	ほうりん保育園
14	10月4日	わくわくフェスタ	あそび広場の企画・運営	20	三重県
15	10月5日	わくわくフェスタ	あそび広場の企画・運営	28	三重県
16	10月11日	白子幼稚園運動会	園児の救護、演技準備補助	10	鈴鹿市白子幼稚園
17	10月11日	ハートピア保育園	園児の救護、演技準備補助	3	ハートピア保育園



## (4) 広報物及び研究成果の発行

- 1) センターたより「いくぶん」第19号  
10月に発行しました。
- 2) 育児文化研究センター紀要「高田短期大学育児文化研究」第10号  
3月に発行しました。

高田短期大学育児文化研究 第10号執筆予定一覧

\*掲載順は各種別で著者五十音順

種別	テ ー マ	執筆者	頁数
研究論文	保育者養成校の授業科目「保育内容」の教育内容に関する研究	青木 信子 藤重 育子	8
研究論文	子どもの表現活動を通しての学生の学びについて—保育実習・事後アンケートを分析して—(仮)	秋田 郁	10
研究論文	子育て支援のための基本的生活習慣に関する研究(2) —広場利用保護者と支援者の子育て意識の検討—	鷺見 裕子 宮崎 つた子	10
研究論文	子ども・子育て支援新制度の概要と問題点	千草 篤麿 他	12
研究論文	幼児の合奏導入のための音楽遊びに関する授業実践研究(2) —音のイメージを広げる遊びを中心に—(仮)	山本敦子	12
実践報告	世界の子どもたちの自尊感情を育てる幼児教育のあり方—お笑いセンサーとPCを携えて—	池村 進	10
実践報告	大学における地域子育て支援の取り組み—「おやこひろば たかたん」の実践を通して—(仮)	水野 潤子 鷺見 裕子	10
資料・文献紹介	乳幼児発達研究第2号(1983年)掲載の「どろんこ保育」について	千草 篤麿 小菅 千恵子	10
資料・文献紹介	絵本「どこいったん」を考える	藤重 育子	8

## (5) 関連会議

### 1) センター会議

- i 前期センター会議 開催日 5月13日(火) 16:30~  
\*平成25年度事業報告と平成26年度事業計画について  
\*話題提供 「子ども子育て支援制度の動き」 提供者 杉本 郁夫研究員
- ii 後期センター会議 開催日12月11日(木) 16:30~  
\*平成26年度報告と平成27年度に向けて  
\*研究報告 水野 潤子・鷺見 裕子研究員

### 2) 拡大運営委員会

- 第1回 開催日 4月25日(金) 16:30~18:00  
内容:平成26年度事業計画について



第2回 開催日 9月 2日(火) 16:30~18:00

内容:平成26年度中間報告について

第3回 開催予定 2月3日(火) 16:30~18:00

内容:平成27年度計画について

### 3) 地域参画関連会議および事業

平成26年4月から平成27年3月までに育児文化研究センター運営委員で以下の津市および三重県の会議・事業に参画しました。

#### i 津市子育て子育て支援システム地域運営協議会(ICT)

##### 第1~5回

開催日:4月23日(水)、6月18日(水)、9月9日(火)

11月14日(金)、3月23日(月)

内容:事業計画及び事業運営について

##### 第1・2回 子育てママの「ホッと」ひろば

開催日:8月29日(金)、2月20日(金)

会場:本学

講師:キャリア育成学科 特任准教授 橋本 景子

#### ii 津市子育て・子育て支援会議

##### 第1・2回

開催日:9月29日(月)、11月18日(火) 18:30~

内容:津市次世代育成支援行動計画後期計画の評価について

#### iii つながりひろば運営委員会

##### 第1~4回

開催日:4月29日(火)、6月5日(木)、10月2日(木)、3月5日(木)

内容:つながりひろば事業の運営企画

#### iv みえ次世代育成応援ネットワーク運営会議

##### 第1~4回

開催日:5月9日(金)、9月10日(水)、1月22日(木)、3月18日(水)

#### v みえ次世代育成応援ネットワーク会員総会

開催日:5月29日(木)

#### vi 第9回子育て応援!わくわくフェスタ

開催日:10月4日(土)・5日(日) 10時~16時

内容:ゆめドームうえのを会場に子育て応援隊で「たかたん あそびひろば」を企画・運営

#### vii 第1・2回地域別懇談会(中勢地区)

開催日:11月19日(水)、1月9日(金)

## (6) 津市委託事業

### 1) 津市ひろば関係者交流会事業(つながりひろば) 年4回開催

#### i 第1回

日時:5月22日(木) 18:00~20:30

場所:津市立桃園幼稚園

参加者:55名

話題提供 「幼稚園での子育て支援 ~つながりづくり~」



ワークショップ 「「人とのつながり」をつくるには」

ii 第2回

日 時：8月28日（木）18：30～20：30

場 所：津リージョンプラザ

参加者：36名

話題提供 「津市社会福祉協議会（社協）を知る」

ワークショップ 「地域（小学校区）でつながりをつくる仕掛けを考えよう」



iii 第3回

日 時：11月13日（木）18：30～20：30

場 所：津市役所

参加者：52名

話題提供 「津市民生委員・児童委員と主任児童委員を知る」

ワークショップ 「地域で子育て家庭を見守るには」

iv 第4回

日 時：2月5日（木）18：30～20：30

場 所：津市河芸ほほえみセンター

参加者：27名

話題提供 「河芸地域での子育て支援の取り組みを知る」

ワークショップ 「地域での取り組みを続けていくには」

2) 支援者事業：親子のかかわり支援（親支援の援助技術） 年2回開催

i 第1回

日 時：7月11日（金）18：30～20：30

参加者：23名

テーマ：「子育てはっぴい パパ・ママワーク」の活用

講 師：東浦 重人氏（県少子化対策課）

ii 第2回

日 時：1月22日（木）18：30～20：30

参加者：23名

テーマ：「親の養育力を高めるためにお父さんの出番を考える

～父親の育児参画・お父さんの出番を考える四日市市の取り組み」

講 師：石川美千代（四日市市こども未来課）、館 啓司（父親マイスター）

3) 支援事業（子どもとの愛着形成、お母さんのリラクゼーション） 年4回開催

i 第1・2回

赤ちゃんとお父さん＆ママ ファミリー教室

日 時：7月26日（土）10：00～12：00

場 所：久居総合福祉会館

参加家族：11組

父親教室「赤ちゃんとお父さんのふれあい、ベビーマッサージ」

講 師：高野 味鈴氏（ヤナセクリニック助産師）

母親教室「子育て中のママドクターのお話と子育て交流会」

講 師：矢部 千鶴氏（県立一志病院医師）



## ii 第3・4回

赤ちゃんとパパ&ママ ファミリー教室

日時：11月1日（土）10:00～12:00

場所：高田短期大学

参加者：7組

父親教室「ベビーマッサージを通じた赤ちゃんとのふれあい」

講師：藤重 育子（本学子ども学科助教）

母親教室「手づくり楽器とママソングで交流」

講師：山本 敦子（本学子ども学科准教授）



## (7) 研究事業

### 1) 研究報告

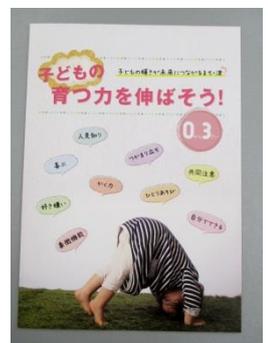
調査研究の研究成果を下記及びひろば関係者交流会で報告するとともに、紀要等への執筆を予定しています。

第61回日本小児保健協会学術集会（6月21日 福島グリーンパレス）

- i 子育てひろば関係者交流会を開催することによる子育て支援者の意識と地域での取り組みの変化について
- ii 保護者と支援者の子育てに関する意識（1）  
ー子育て支援に求められる関連機関と情報源ー
- iii 保護者と支援者の子育てに関する意識（2）  
ー子どもの年齢別にみる基本的な生活習慣ー

全国保育士養成協議会第53回研究大会（9月19日 ホテルニューオータニ博多）

- iv 子育て広場を利用する保護者と支援者の基本的な生活習慣に関する意識



### 2) 「子育て支援」の津市広報物（リーフレット）企画、編集

津市発行の「子育て支援」の視点を浸透させるための親向けリーフレットの作成にあたり、掲載内容について文献研究を行いました。それをもとにリーフレット『子どもの育つ力を伸ばそう!』を作成しました。

## (8) その他

### 1) 育児文化研究センターリーフレット

平成27年度配布のためのリーフレットの改訂版を作成しました。

### 2) 子育て情報誌「きらきら」記事の提供

子育てに関する季刊情報雑誌「きらきら」に子育て支援に関する記事を本センター頁に隔月で年間6回掲載しました。

## ●キャリア研究センター

### (1) 平成26年6月設立

当センターは、人材育成、雇用・労働問題、地域社会等に関する研究を行うことで社会と連携し、地域貢献ならびにキャリア教育に寄与することを目的として今年度より発足しました。

9月30日現在の研究員は13人で、内訳は教職員9人、非常勤講師4人となっています。



### (2) 事業活動

#### 1) 『子ども子育てシンポジウム』～女性の働きやすい環境づくり～

日時：平成26年8月23日（土）13:00～16:20

場所：名張市青少年センター アドバンスコップADSホール

パネルディスカッション「女性の働きやすい環境づくり」

コーディネーター キャリア研究センター長 杉浦 礼子



#### 2) 『企業を成長に導く職場づくりセミナー』

日時：平成26年9月4日（木）13:00～15:00

場所：三重県勤労者福祉会館6階講堂

パネルディスカッション「子どもと企業を育てる職場づくり」

コーディネーター キャリア研究センター長 杉浦 礼子



#### 3) 中央公民館との共催事業実施

##### <活動目的>

高齢者の情報格差を解消するために、高齢者がパソコンやインターネットなどの情報技術に触れたり学習したりする機会を作ることが目的に活動を展開しました。津市中央

公民館の地域力情報セミナー「シニアパソコン教室」と「パソコンの魅力を伝えよう」の講座運営を、任意団体「情報ボランティアみえ」が主管し、キャリア研究センター研究員や本学学生が講座の運営に参画しました。



#### <活動内容・実績>

##### i シニアパソコン教室

講座のテーマは、「パソコン入門&インターネット入門」で、パソコンを構成する基本的な装置やデスクトップの働きなどの名称の説明やマウス操作・ウィンドウ操作・文字入力などの基本操作から始めました。さらに、ブラウザの基本操作、Yahoo!サイトサービスの利用方法、Web検索方法などのインターネットの基礎的な利用方法までを午前の2時間で行いました。午後は、毎回内容が異なりますが、ネット利用のケースを実践したり、便利なサイトの紹介をしたり、12月の講座では年賀状作成を体験したりしました。最後の20分ほどは実践演習と称して、スタッフに相談しながら受講者がインターネットで体験したいことを実践してもらいました。

#### 平成26年度のシニアパソコン教室開催一覧

- 第1回 7月 6日(日)  
 受講者19名(60歳代12名、70歳代6名、80歳代1名)  
 午後の内容 ケース「東京スカイツリーを見に行こう」、ネット活用事例
- 第2回 12月14日(日)  
 受講者30名(60歳代21名、70歳代9名)  
 午後の内容 年賀状作成、ネット活用事例
- 第3回 3月 1日(日)  
 受講者28名(60歳代18名、70歳代8名、80歳代2名)  
 午後の内容 ネットショッピング体験、googleマップの紹介

##### ii パソコンの魅力を伝えよう講座

情報ボランティア(パソコン指導ボランティア)を育成することを目的とした5回連続で行う課題達成型の講座で、最終回には、シニアパソコン教室の午後の一単元を自分たちが考えた内容で講師役を務めました。また、活動を支えるツールとして、グループウェアサービスアプリのサイボウズLiveを利用し、運営側からの連絡や情報提供、グループ間の情報交換などに役立てました。今年度は、20名の募集に対し、10名が応募し、最終的には3名ずつ2グループが最終回の講座を担当しました。内容は、「ネットショッピング体験」、「google mapとストリートビュー体験」としました。

#### 平成26年度の講座開催一覧

- 第1回 11月 1日(土) 10時~12時  
 中央公民館 ガイダンス・グループワーク
- 第2回 12月14日(日) 9時30分~16時 本学  
 支援スタッフ体験
- 第3回 1月17日(土) 10時~12時  
 中央公民館 指導内容の検討
- 第4回 2月14日(土) 10時~12時  
 中央公民館 指導内容の準備
- 補講 2月27日(金) 14時30分~16時 本学  
 リハーサル
- 第5回 12月14日(日) 9時30分~16時 本学  
 講師体験



#### 4) 津新町商店街活性化支援事業

##### <活動目的>

本事業への参加目的は、学生が地域の方と交流することにより地域の現状を知り、地域の方からも育ててもらうことにあります。また、この事業を支援することで理論的に学んできたビジネスを実務的に学ぶ機会になることも期待して活動しました。

##### <活動内容・実績>

今年度は、キャリア育成学科オフィスワークコース1年生のうち、杉浦ゼミ、岡田ゼミに所属する26名が本プロジェクトへ参画しました。プロジェクトへ参画するにあたっては、平成26年10月に杉浦ゼミ、岡田ゼミの1年生を対象に、商店街について講義すると同時にイベントに参画することを学生に告知し、10チーム編成で合計20店舗の取材を実施しました。

##### i ヒアリング調査 平成26年11月6日(木) ヒアリング調査の実施

ヒアリング項目として、お店のメイン・ターゲット、売れ筋商品、店づくりや商店街への思い、店主としての魅力や苦勞といった全チーム共通項目と独自に考えるヒアリング項目の2種類を設定し、1チームが2店舗で30分ずつのヒアリング調査を行いました。

##### ii 学内報告会 平成26年11月13日(木) ヒアリング結果報告会の実施

ヒアリング結果で得た情報を元に学生目線で感じた津新町商店街に対しての率直な感想や魅力、改善策などについて各チームが5分間のプレゼンテーションを行いました。

##### iii サロン交流会 平成27年1月22日(土) サロン交流会へ参画

津新町商店街で行われたサロン交流会に学内報告会で印象深かった3チームが参加し、発表した内容を元に意見交換を行いました。

なお、平成26年11月23日(日)に開催された「津新町フェスタ」や店主の似顔絵作成、ヒアリング調査の様子はNHK津放送局の取材を受け、平成26年11月26日にNHKニュースで放送されました。



#### 5) ホームカミングデー実施

##### <活動目的>

キャリア研究センター事業のひとつに、本学卒業生のリカレント教育があります。この事業を始めるにあたって、卒業生が求めている教育内容がどのようなものであるのかを見極め、支援するために、ホームカミングデーを設けました。当日は、卒業生の近況や現在職場で抱えている悩み、本学に対する要望などを披露してもらいました。

##### <活動内容・実績>

日時：平成26年10月26日(日) 10:30~12:00

場所：図書館1階 グループワークエリア

参加者：卒業生21名

(平成26年3月卒業生14名、  
平成25年3月卒業生2名、  
平成24年3月卒業生1名、その他4名)



## 6) 百五銀行・百五経済研究所との連携協定調印

### <活動目的>

株式会社百五銀行および株式会社百五経済研究所と連携協定を締結しました。

連携協定は、三者それぞれが有している教育や産業資源を活用して、相互の機能向上を図るとともに、地域貢献とキャリア教育に寄与することを目的としています。三重県下を中心に多くの事業所と強固な繋がりを有している百五銀行および百五経済研究所と連携することは、キャリア研究

センターが今後展開を予定している様々な地域連携事業を効率的・効果的に推進できると共に、百五銀行の取引先に対しても新たな価値の提供ができ、百五経済研究所の会員事業所に対しても新規参加率が向上する新たな切り口の事業の提供に繋げることができると考えています。



### <活動内容・実績>

平成27年1月15日(木)に百五銀行本館において執り行われた連携協定調印式には、百五銀行代表取締役頭取上田豪氏、百五経済研究所代表取締役社長雲井純氏、栗原廣海学長のほか、百五銀行からは副頭取、営業渉外部長、一身田支店長、高田短期大学からも杉浦キャリア研究センター長、事務局長に加えて在學生も出席しました。

また、当日は報道機関7社(三重テレビ放送、日本経済新聞社、日本金融通信社、中日新聞社、伊勢新聞社、中部経済新聞社、三重ふるさと新聞)による記者発表・会見を実施し、記者からは、頭取や学長に対して連携の意義や目的、具体的な活動内容などについて質問が寄せられました。

### <主な連携・協力事項>

本連携協定による主な連携・協力事項は、以下の4点です。

- ① 人材育成、雇用・労働問題、地域社会等にかかる研究活動および社会連携に関すること
- ② キャリア形成の支援、研修および交流活動等に関すること
- ③ 研究紀要、情報誌等の発行に関すること
- ④ その他、地域貢献とキャリア教育に寄与する目的を達成するために必要と認められること

## 7) 高短One dayセミナー実施

### <活動目的>

地域の方を対象としたキャリア形成の支援、研修および交流活動等に関する事業の一環として、高校1、2年生を対象とし、体験学習を主体とした講座の受講や在學生との交流を通じ、進路選択や自らのキャリアについて考えるきっかけづくりとなることを目的として実施しました。

### <活動内容・実績>

日時：平成27年2月7日(土) 13:00~16:00

場所：高田短期大学図書館及び121教室

講座内容：

#### i 講座1「ゲームで学ぶコミュニケーション」

講師：キャリア研究センター主任研究員

キャリア育成学科助教 野呂 健一

内容：社会で望まれるコミュニケーションのあり方について、  
ゲームを通じて楽しく学ぶ  
お菓子パーティー

在學生と参加高校生が和やかな雰囲気の中で交流

### iii 講座2「タワービルディング～目標達成とは」

講師：キャリア研究センター研究員、キャリア支援センター係 野崎 千恵

内容：チームで協力して1つのことをするために大切なことは何か？体験を通して学ぶ

参加者：24名

## 8) 就業支援セミナー実施

### <活動目的>

平成25年度に三重県が実施した子育て中の女性へのアンケート調査で、就労にあたり『ITスキル』を心配している女性が多いことが明らかとなっていることから、これから就労しようと考えている方、パソコン操作を経験したことはあるが再就労するとなると不安を感じる方をメインターゲットとした講座を企画、三重労働局・三重県男女共同参画センター「フレンテみえ」の後援により実施しました。

### <活動内容・実績>

日時：平成27年2月10日（火）13：00～16：00

場所：高田短期大学PC1教室

講座内容：

「これからの職場で活用できるWord・Excel入門」

- ・「実務で役立つWord・Excelの基本操作」
- ・「案内文を発送する」
- ・「ファイルの管理」

講師：川喜田多佳子研究員（本学講師）

参加者：21名



時間	内容
13:15～14:00	Part1 Word 文書作成
14:10～14:50	Part2 Excel 名簿管理
14:55～15:45	Part3 差し込み印刷
15:45～16:00	Part4 ファイル管理

## (3) 研究活動

### 1) 「高田短期大学キャリア研究センター年報・紀要」創刊号発刊

「高田短期大学キャリア研究センター年報・紀要」の創刊号を平成27年3月に発刊しました。

発行部数は500部、配布先は、学生就職先60部、社会体験実習先60部、各高等学校70部、保護者160部、本学教員（常勤、非常勤、予備含む）160部などで、学生就職先は就職先訪問時、各高等学校は高校訪問時に持参し配布する予定です。

## (4) 会議運営

### 1) 運営委員会開催

i 第1回運営委員会 日時：7月7日（月）10：40～12：00

#### 【協議事項】

1. 研究員の推薦について
2. 本年度の事業内容について
3. 今年度の運営委員会及びセンター会議の開催について

ii 第2回運営委員会 日時：7月28日（月）10：40～12：10

#### 【協議事項】

1. 本年度の事業計画及び主担当者について
2. 第1回センター会議について

3. 研究員の募集活動について
4. センターML開設について
5. センターHPについて

iii 第3回運営委員会 日時：8月25日（月）10：40～12：30

【協議事項】

1. 本年度の事業計画について
2. 平成26年度第1回センター会議について
3. その他

iv 第4回運営委員会 日時：10月14日（月）19：30～20：30

【協議事項】

1. ホームカミングデーの運営について
2. センター年報・紀要投稿規定について

v 第5回運営委員会 日時：11月11日（火）17：30～19：30

【協議事項】

1. 産学連携協定の進捗状況について
2. 津新町商店街活性化事業支援
3. 就業支援事業 女性就労支援
4. 高校生セミナー
5. 「高田短期大学キャリア研究センター紀要・年報」の構成案・執筆担当者

vi 第6回運営委員会 日時：12月15日（月）9：00～10：40

【協議事項】

1. 百五銀行・百五経済研究所との連携事業（案）について
2. 高校生セミナーについて
3. センター紀要・年報の構成案・執筆担当者
4. 平成27年度事業計画（案）について

vii 第7回運営委員会 日時：1月26日（月）9：00～10：40

【協議事項】

1. キャリア研究センターWebページについて
2. 「キャリア研究センター紀要・年報」の構成について
3. 高短One dayセミナーについて
4. 就労支援セミナーについて
5. 平成27年度事業計画（案）について
6. 平成27年度予算について
7. 第2回センター会議について
8. その他

viii 第8回運営委員会 日時：3月5日（木）10：30～11：50

【協議事項】

1. 平成27年度予算について
2. 平成27年度事業計画（案）について
3. 「みえこどもの城」との連携協定について
4. 第2回センター会議について
5. 「キャリア研究センター紀要・年報」の進捗状況について
6. 退会手続きについて

## 2) センター会議開催

- i 第1回センター会議 日時：9月22日（月）10：00～11：00

### 【協議事項】

1. 本年度の事業計画（案）について
2. その他

### 【報告事項】

1. センター年報・紀要への執筆依頼
2. 第2回センター会議の開催

- ii 第2回センター会議 日時：3月11日（月）13：00～13：40

### 【協議事項】

1. 平成27年度事業計画（案）について
  - ①人材育成、雇用・労働問題、地域社会等にかかる研究活動及び社会連携
  - ②本学卒業生のリカレント教育
  - ③（地域に向けた）キャリア形成の支援、研修及び交流活動
  - ④研究紀要、情報誌等の発行
  - ⑤その他 センター会議開催について

### 【報告事項】

1. 平成26年度事業実施報告
2. 構成員の変更について

## 3) その他会議開催

- i 平成26年度第1回キャリア研究センター地域連携事業（交流会）打ち合わせ会  
日 時 平成27年3月6日（金）16：00～17：00

場 所 高田短期大学図書館プレゼンテーションルーム

### 【協議事項】

1. 過年度類似事業の経緯説明
2. 平成27年度地域連携事業の骨格
3. 平成27年度交流会について
4. その他

- ii 平成26年度第1回みえこどもの城と高田短期大学の連携協定打ち合わせ会

日 時 平成27年3月16日（月）10：30～11：30

場 所 高田短期大学図書館

### 【協議事項】

1. 担当者自己紹介
2. 連携協定内容について
3. 連携事業（案）について
4. 次回以降のスケジュール確認

## ●介護福祉研究センター

### (1) 平成26年4月設立

当センターは、介護福祉、高齢者問題、障害者問題等に関する研究を行うとともに、地域社会への貢献、連携をめざし、地域福祉に寄与することを目的として、今年度より発足しました。

9月30日現在の研究員は21人で、内訳は教職員8人、非常勤講師5人、学識経験者3人、卒業者5人となっています。



### (2) 事業活動

#### 1) 「介護の現場」体験ツアー

介護福祉に関心のある高校生を対象に実際に介護現場を見て、体験するバスツアーを実施しました。高校生が介護を学ぶ在学生と交流しながら、研究員の案内により施設見学、食事体験、レクリエーション体験などを通して介護への意識を高めました。

開催日：8月5日

参加者：研究員（教員）4人 高校生5人 学生6人

場所：特別養護老人ホーム安濃聖母の家、特別養護老人ホーム報徳園



#### 2) センター開設記念講演

日時：9月28日 13:00～15:00

講演：「介護の現場からみた介護福祉士養成教育」

講師：高田光寿園施設長、本学非常勤講師、研究員

高林 光暁氏

参加者：学長及び研究員13人、卒業者5人



#### 3) 介護福祉セミナー

i 第1回 9月28日 15:00～16:30 於) 本学介護福祉研究センター

テーマ：「介護職のための腰痛予防」

講師：高田光寿園理学療法士、本学非常勤講師、研究員 高山 文博氏

参加者：研究員10名 卒業者7名

ii 第2回 3月8日 於) 本学育児文化室

テーマ：「音楽療法の実践」

講師：研究員 佐野 恭子氏

参加者：13名



#### 4) 介護職員のためのキャリアアップ講座

- i 第1回 12月25日 於) 特別養護老人ホーム報徳園  
テーマ:「介護職のメンタルヘルス～介護労働の専門性から心の健康を考える～」  
講師: 千草 篤磨センター長  
参加者: 30名
  
- ii 第2回 2月24日 於) 特別養護老人ホーム報徳園  
テーマ:「介護人材の育成と定着について」  
講師: 研究員 南崎 千春氏  
参加者: 29名
  
- iii 第3回 2月25日 於) 特別養護老人ホーム安濃聖母の家  
テーマ:「特別養護老人ホームにおける『尊厳と自立』を考える」  
講師: 千草 篤磨センター長  
参加者: 36名

#### 5) 地域の高齢者との交流事業

日時: 1月14日 於) 高田短期大学  
参加者: 18名

### (3) 研究活動

#### 1) 定例研究会

- i 第1回定例研究会: 11月6日(木) 於) 高田短期大学介護実習室  
テーマ:「介護職のメンタルヘルス～介護労働の専門性から心の健康を考える～」  
発表者: 千草 篤磨センター長  
参加者: 12名
  
- ii 第2回定例研究会: 12月4日(木) 於) 高田短期大学図書館  
テーマ:「EPAによる外国人介護福祉士の現状」  
発表者: 徳山 貴英主任研究員  
参加者: 8名
  
- iii 第3回定例研究会: 1月8日(木) 於) 高田短期大学図書館  
テーマ:「エンディングノートのアンケート調査の報告」  
発表者: 福田 洋子研究員  
参加者: 8名
  
- i 第4回定例研究会: 2月5日(木) 於) 高田短期大学図書館  
テーマ:「総合生活支援技術の授業実践研究～学習活動の工夫による学習者の能動的な学び～」  
発表者: 中川 千代研究員  
参加者: 9名

#### 2) センター紀要創刊

平成27年3月31日発刊、執筆者は研究論文6名、研究紹介9名。

## (4) 会議関係

### 1) 運営委員会

- i 第1回：平成26年4月15日（火）
  - ・ 研究員の募集について
  - ・ 運営委員の役割について
- ii 第2回：平成26年8月21日（木）
  - ・ 前期センター会議の開催について
  - ・ 第1回介護福祉セミナーの開催について
  - ・ 前期の活動について
- iii 第3回：平成26年9月22日（木）
  - ・ 新規研究員
  - ・ 前期センター会議の振り返り
  - ・ 第1回介護福祉セミナーの振り返り
  - ・ 後期の活動予定について
- iv 第4回：平成26年10月8日（水）
  - ・ 第1回定例研究会の振り返り
  - ・ 今年度の定例研究会の予定
  - ・ 学術研究振興資金応募について
  - ・ センター紀要「介護福祉研究」創刊号について
- v 第5回：平成26年12月3日（水）
  - ・ 第2回定例研究会の振り返り
  - ・ 研究員の推薦について
  - ・ 地域の高齢者との連携事業について
  - ・ 介護職のためのキャリアアップ講座について
  - ・ 後期センター会議及び第2回「介護福祉セミナー」について
- vi 第6回：平成27年1月20日（火）
  - ・ 第3回定例研究会の振り返り
  - ・ 介護職のためのキャリアアップ講座について
  - ・ 社会福祉施設と学生との交流・連携事業について
  - ・ センター紀要「介護・福祉研究」創刊号の進捗状況について
- vii 第7回：平成27年2月3日（火）
  - ・ 第4回定例研究会
  - ・ 第5回定例研究会の延期
  - ・ 全国障害者問題研究会東海ブロック研究集会の後援について
  - ・ 介護職のためのキャリアアップ講座について
  - ・ センター紀要「介護・福祉研究」創刊号の進捗状況について
- viii 第8回：平成27年3月20日（金）
  - ・ 研究員の申請について
  - ・ センター紀要「介護・福祉研究」創刊号の進捗状況について
  - ・ 来年度事業計画について

## 2) センター会議

- i 前期センター会議：平成26年9月28日（日） 於）高田短期大学介護実習室
  - ・学長挨拶
  - ・平成26年度事業計画
- ii 後期センター会議：平成27年3月8日（日） 於）高田短期大学育児文化室
  - ・平成26年度事業報告（案）
  - ・平成27年度事業計画（案）

## (5) その他の後援事業

### 1) ほくせい地域福祉学習会

7月27日（日） 於）四日市市文化会館

### 2) 全国障害者問題研究会東海ブロック研究集会

2月21日（土）～22日（日） 於）高田短期大学

## IV. その他の学内情報

### ●ボランティア活動支援室

本学の教育の理念である「やわらか心」の総合的実践の機会を地域社会に求め、最も有効な手段として、ボランティア体験活動を実施しています。学生は本学で身に着けた専門的な知識や技術・技能、学生自身が身に着けている特性などを活かした幅広い活動は、広く社会から受け入れられ、感謝されて、本学のボランティア活動に大きな期待が寄せられています。そのことが、学生自身を磨く上でも非常に有効であり、成果を上げています。



三重県教育委員会／高等教育機関の専門知識や技能を活かす教育プログラムに参加



鈴鹿市立白子公民館高齢者教室にて



ラオス少数民族村の小学校の現場支援活動に参加



平成26年度前期における各学科のボランティア活動はつぎのとおりです。

	件数	人数		
		子ども	オフィス	介護福祉
社会教育(文化)施設での活動	18	130	62	40
社会福祉施設での活動	22	124	25	9
地域まちづくり活動	7	34	9	17
地域福祉活動	8	13	0	23
教育機関施設	8	53	10	3
その他(海外ボランティア活動等)	5	26	24	21
合計	68	380	130	113

## ●仏教行事委員会

### (1) 学内仏教行事の実施

- ・ 新入生本山参詣 開催日：4月 3日(木)  
講 師：学長 栗原 廣海  
参加者：232名
- ・ 宗祖降誕会 開催日：5月19日(月)  
講 師：キャリア育成学科特任教授・仏教教育研究センター長 金信 昌樹  
参加者：325名
- ・ 灌 仏 会 開催日：6月23日(月)  
講 師：子ども学科 非常勤講師 清水谷 正尊氏  
参加者：290名
- ・ 追 弔 会 開催日：10月20日(月)  
講 師：キャリア育成学科教授 畠山 義啓  
参加者：301名
- ・ 報 恩 講 開催日：12月15日(月)  
講 師：学長 栗原 廣海  
参加者：302名



## ●施設設備整備事業の実績

### 1) 教職員用ノートPC購入(26台)

委託会社 (株)システムテクノ  
 施行費用 4,141,800 円  
 施行時期 平成26年4月～平成26年6月



### 2) 学内サーバー整備事業(4台)

委託業者 (株)システムテクノ  
 施行費用 4,226,040 円  
 施行時期 平成26年9月



3) 構内坂道隣接地立木伐採および植栽

委託会社 中勢森林組合ほか  
施工費用 1,422,360 円  
施工期間 平成26年9月～平成27年2月



4) 第三者評価実施に係る費用

評価機関 一般財団法人短期大学基準協会  
評価費用 1,365,000 円  
実施時期 平成26年9月

5) スクールバス マイクロ1台 リース購入

リース月額 106,056 円 総額 7,636,032 円  
開始時期 平成26年12月



## 高田中学校・高田高等学校

### (1) キャリア教育推進事業

若者の職業観や勤労観が揺らいでいることや、インターネットやスマートフォンの普及により、様々な情報を即座に容易に得ることができるようになり、生徒自身がさまざまな体験をする機会や幅広い年齢層との関わりを持つ機会を自ら進んで持たなくなってきました。

その結果、豊かな人間関係の構築や、集団生活に必要な社会性、道徳心や自立心を培うことがますます困難な社会になりつつあります。

本校では、キャリア教育を単に就業するための能力の育成ではなく、このような社会の変化の中でも自己を見失うことなく、主体的に自己の進路を選択、社会人としての自己を働くこととの関わりという観点から、生徒それぞれの内面の成長・発達を促すことで漠然と抱いている夢や希望を明確にして、学ぶことや働くことへの意欲や目的意識を醸成し、将来、社会人として自己をよりよく生かしていく基盤となる能力や態度を育成することを目的としています。

その基本に基づき、本年度もキャリア教育を専門とした進路情報の著名人などの講演を受講することにより、更なる自己研鑽に努めてきました。また、高校4年生については、例年のとおり夏休みを利用しての校外学習として、現場へ直接出向き実際に社会で活躍している方々の話を聞くことにより、自分自身が求める将来像について、より一層理解を深めることができる事業と考え実施しました。

後日アンケートにおいても多くの生徒が今後の進路に興味を持ち、さらなる職業観を深めることができたことは大きな効果がありました。

#### <進路・職業観を考える講演会・座談会>

中3全員を対象に4月11日(金)実施

題目 公認会計士による職業観講座

講師 公認会計士

高3年を対象に鈴鹿医療科学大学連携講座5月9日(金)実施

題目 医療系学部の現状講演

講師 薬学・看護・医療技術学部関係者



高4年生を対象に外務省高校講座5月21日(木)実施

題目 「外国交際に求められるもの」

講師 外務省人物交流室課長補佐 二木 孝氏



＜高4年 校外宿泊学習＞（7月27日から29日まで東京を中心とした企業・大学で実施）

生徒は中学3年より準備をすすめて～夢への一步を踏み出そう～をテーマにさまざまな大学、企業等の実際の現場を見学することにより、社会人とはどうあるべきかを体感して自己の進路意識を高め、共通の進路希望を持つ友人やクラスメイトと一緒に行動することで社会常識マナーや交友関係を広める事を目的で実施しました。

7月28日の夜は福島大学教授白石 豊氏の「夢をかなえるコツ」をテーマにした講演を拝聴しました。有名人の例を挙げ、目標の設定の仕方や達成への技術について具体的に解説していただきました。

なお、28日の朝から夕方まで本来の目的である生徒自身が興味を持っている分野の先輩・会社・大学への訪問は、個々の進路を考えるきっかけになったのは勿論のこと、社会常識やマナーを学ぶ良いきっかけになったと思います。

この研修を元に高校生活をより豊かなものにしていくものと考えられます。



（白石教授講演）



（メディア訪問）

## （2）部活動の推進事業

部活動は、学年や学級の所属を離れ共通の興味と関心を追求し、そのなかでマナーやルールを守る社会性を身につけることや自らの意思で参加し活動するという自主性を養い、活動を通じて体力や技術の向上にとどまらず個性の伸長を図ることを目的とする教育活動の一つです。

そのような集団行動の中で協力することを学び、より高い水準の技能や記録に挑戦する中で部活動の楽しさや喜びを味わい、学校生活に豊かさをもたらす、生涯にわたってスポーツ・文化・芸術・科学に親しみ豊かな人間性を培うことを目的として継続的に取り組みました。

また、中学生においては、特に基礎体力の向上及び仲間づくりの場であり、健康の増進を図ると共にスポーツや趣味の楽しさ・喜びを味わい、自分を律し他人を思いやる人間性を培うことを目的とし、学校教育の一環として継続的に取り組みました。

練習成果を競う県内大会において優秀な成績を収めることで、更なる大きな目標である全国・東海大会への出場という意欲が部活動の大きな継続性になっていると考えられます。

### 平成26年5月現在のクラブ活動所属生徒数

		部数	人数	男	女			部数	人数	男	女	
高等学校	文化部	25部	485名	147名	338名	中学校	文化部	15部	159名	67名	92名	
	運動部	19部	657名	425名	232名		運動部	11部	370名	221名	149名	
	同好会等	4部	91名	15名	76名		文芸部		8名	0名	8名	
							クリケット愛好会		24名	24名	0名	
		計 1, 233名						計 561名				

(活動実績) <高等学校 運動部 全国大会・東海大会出場クラブ>

新体操インターハイ 個人総合第3位入賞

なぎなたインターハイ 団体第5位入賞

卓球ダブルスインターハイ ベスト32

陸上競技男子走り幅跳び 第12位、

馬術団体・個人全国大会出場

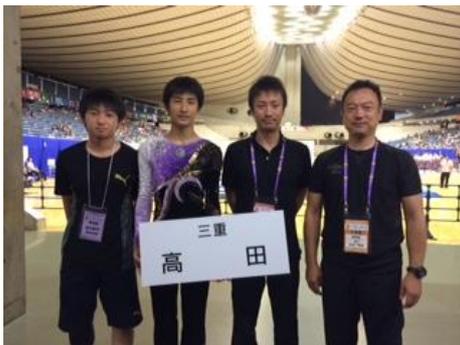
その他東海大会出場 柔道・水泳・軟式野球・空手道

<文化部 全国大会出場クラブ>

将棋・文芸・放送

(活動実績) <中学校 運動部東海大会出場クラブ>

陸上競技



(新体操部)



(放送部)

### (3) 防災教育・危機管理教育の取り組み

火災、地震など予測不可能な緊急事態が発生した場合、まず、自らの命を守り、次に身近な人を助け、さらに地域に貢献できるよう防災教育に取り組みました。

本年度は、初めて地域住民の方(約160名)及び消防署との連携のもと、災害発生時避難所指定されている本校までの、自宅からの避難経路の確認と地域間状況把握連携の確認のため合同避難訓練を実施し、生徒は体の不自由な方の避難介助をするなど、本校が避難所指定されていることを意識付けするためにも体験型防災教育に取り組みました。

<避難訓練> 平成26年9月2日(火)実施

(目的) 地震発生時における避難場所・避難経路の確認

地域の住民の実態を把握する

本学と地域住民の連携による避難誘導

(要領) 想定状況 震度6強および大津波警報発令

避難の実働訓練

地震発生による身の安全確保、

および地域住民の避難誘導・避難介助

消防署の協力のもと煙体験訓練、

水消火器による消火訓練、

車いす避難者介助

その他、協力団体による防災用品の体験試食および

介助方法



また、学内機密情報の保護のため、パソコンや端末記憶装置持ち込み等について、取扱規則を定めて個人情報の漏洩がないように、教職員に意識の徹底をはかっていると共に、学校関係者や生徒間での誹謗中傷を早期発見するためトータルにサポートする事業を専門業者に委託して危機管理に努めてきました。

保護者へのいろいろな情報発信源として「あんしんネット」、「きずなネット」を利用し最新情報を随時的確に提供してきました。

#### (4) 教職員の資質向上事業（初任者研修、学内研修、中部私学研修、就任10年研修など）

##### 1) 新規採用教員研修の推進

初任者研修として中京地区の他の私学教員と8月20日から22日までの3日間で愛知・岐阜・三重県下私立学校合同合宿研修を実施し、私立学校教員としての実践的指導力と使命感を養うと共に、幅広い識見を習得させることや心構え等について研修し教育指導の充実を図りました。（本年3名参加）

初日	（講演テーマ）		
	「私立学校の教員としての心構え」	日本私学教育研究所長	中川 武夫先生
	「なぜ、今集団行動なのか～真心とは～」	日本体育大学名誉教授	清原 信彦先生
2日目	グループワーク	南山大学教授	津村 俊充先生
3日目	集団行動訓練	豊川高等学校	中川 雅彦先生
		愛知啓成高等学校	大友 伸夫先生

研修参加教員は、終了後教員として自覚がより深まり、組織の大切さを実感したという声が多く寄せられました。

さらに本校においても学内研修として独自に、本年は12回の研修を次項の内容で実施し、事務的内容や指導教員が生徒との接し方や指導方法を伝授し教員として一日でも早い自立を目的として実施しました。

また、終了後は校長、教頭を囲んでオフサイトミーティングを行い翌年度の実施計画案に役立てられます。

平成26年度 初任者研修 実績表

	研修テーマ	実施日時	担当者	研修場所
1	初任研OR	4月18日(水) 15時40分～16時30分	伊藤テ	4号館会議室
2	高田の歴史と建学の精神について	4月22日(火) 15時40分～16時30分	学校長	
3	学校法人の規定について	5月9日(金) 15時40分～16時30分	河北	
4	教務の実務	5月15日(木) 13時30分～14時20分	宮崎	
5	学校評価	6月12日(木) 15時40分～16時30分	因	
6	学校の危機管理	6月20日(金) 15時40分～16時30分	伊藤テ	
7	人権推進教育	7月17日(木) 14時00分～14時50分	水野ト	
8	生徒指導	8月7日(木) 10時00分～10時50分	鷺尾	
9	教育相談	9月4日(木) 15時40分～16時30分	辻井	
10	特別支援教育・カウンセリング	11月4日(火) 15時40分～16時30分	的場・ダイクス	
11	進路指導	11月13日(木) 15時40分～16時30分	鈴木キ	
12	コンプライアンス(服務規程・教育法規)	12月4日(木) 13時30分～14時20分	伊藤テ	

##### 2) 教員研修の推進

学校は、多様な資質能力を持つ個性豊かな人材によって構成される教員集団が連携・協働することにより、組織全体の教育活動の充実を図ることができることから、本年も教員の意識向上とスキルアップを目的として様々な教員研修を推進しています。

研修については、これまでの自分自身の教育活動を振り返るとともに、教育界の最新情報を理解して将来への課題を自覚し、これからのリーダーシップを発揮するためのものです。

その他大学ごとの入試問題検討会にも積極的に参加し、大学により毎年変更される問題傾向や入試情報を少しでも生徒に有利な環境に導くべき把握に努めています。

また、公立中学校へ出向き、本校の模擬授業を実施するという事は、本校教員の資質を問われる関係上、普段以上の緊張感で接し、より自分自身の研究も必要となり、教員としての資質向上につながっていくものと考えられます。

さらに、10年経験者研修参加者（本年1名）については、日本私学研究所主催の全国研修に参加し、1泊2日の短い期間ではありますが、「学校危機管理」「コミュニケーションにおける誤解の理解」「教育界の現状と課題」「体験的教師論」の4テーマに基づき講義や討議を通じて意識の高揚に努めます。分散会、総合討議などにより、同年代の教員が交流することで今後の私立学校をリードするための知識能力がつけられ明日への活力が得られる研修会であります。

その研修内容について職員会議等において報告を行うなどし、他の教員とも情報共有することで確実に教員全体の意識向上につながっており、その成果が生徒へ還元されていくことで、教育の質の向上を図っていこうと考えています。

また、平成26年度生徒満足度調査においても、生徒の質問に対してわかりやすく対応している、と答えた生徒が約70%あり、このことは生徒目線での教育がなされていることがうかがえるため、この教育効果の維持向上に努める必要があると考えられます。

### 3) ICT教育見学会 平成27年3月13日（金）

教員を対象としたICT教育見学会が三雲中学において実施されました。

タブレットを利用した先進的なデジタル授業を見学し、実践報告と、今後の課題について教示していただきました。



## (5) きめ細やかな学習指導の推進

各学年の生徒の学力および特質に応じたコース及びクラス編成を考慮しながらその指導に当たることが重要と考えており、その基本に沿った学習指導に努めています。

個性豊かで自立した生徒の育成を目指して通常の綿密な年間計画に基づいた授業は勿論のこと、小テスト、補講、夏期講習といった生徒の進捗及び達成度に応じた指導を実施すると共に、担任、教科担任、進路指導部の連携のもと、定期考査後各個人の状況に合わせた個別懇談を実施し進路実現のためのサポートを行っています。

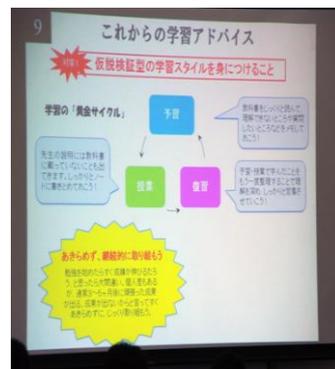
さらに、夏期休業中においては、各学年創意工夫されたセミナーを実施し、高1学年では1泊2日の合宿セミナーを行い「与えられて学ぶ」だけでなく、「自ら求めて学ぶ」を基本として苦手な分野の克服に努めています。



高1夏期合宿セミナー  
授業風景

また、学習面以外の面で、不登校や、精神的な悩みを抱える生徒の増加が見られますが、本校においては教育支援委員会、生徒指導部、各学年、カウンセラーと協力して保護者や生徒の負担を少しでも軽減できるように努め、明るく元気な学校づくりに取り組んでいます。

今後も親切丁寧な繰り返し学習や、習熟度に応じた個別指導を行うことにより学習意欲と実力向上に努めていき、生徒全体が楽しく充実した学校生活を送れるよう、きめ細かく生徒の実情把握に努力していきます。



## (6) 命の大切さを考える教育の推進事業

本校の建学精神である「仏教の教え、親鸞聖人の教えに基づく宗教的情操教育」を校訓として、仏教教育による人間味の豊かさを求め、規律精神を基とした行動力の育成と基礎学力の充実錬磨につとめ広い視野から社会貢献できる人材の養成を目指した教育を行っています。

生徒一人ひとりがかげがえのない命を持っていることの大切さを学習し、他者の命の重みを実感し人との関わりや環境を守ることの大切さを熟考できる授業を行っています。

月1回の本山参詣や週1時限の一般仏教において自他共にかげがえのない「命」を尊重し、人間は一人で生きられない存在であり、他者と共感共有し、支え合って生きる重要さに気づかせています。

また、法話を聞くことを通して、聞くことの大切さ、その受容により共感する大切さを身につけることにつながります。

これらの体験活動を基盤として人権学習とも連携しあい、社会でのマナー、コミュニケーション力を向上させ、自然との共生に関心を持って身近な日常生活の中で思いやりと慈しみのある生き方をじっくり養成しています。

いじめ問題に対しても、全校生徒対象に、年2回定期的にアンケートを実施し、事実関係を把握し毅然とした指導を行っています。



## (7) 国際交流事業

(目的)

- ① 国際感覚豊かな人間育成のため、授業や諸行事に参加しながら異国の学生生活を体験し友好を深めること。
- ② 互いの生活習慣や文化を学び、今後の交流振興に貢献すること。
- ③ 受け入れ家庭が、生徒と共に学び、生活することにより異文化理解を深めていくこと。

参加生徒においても、ホームステイの関係から家族全体で国際社会に対する目を開いていただくことにより、外国語に対しても興味を抱き卒業後の進路選択に影響を与えた生徒も少なくない状況です。

### 1) オーストラリア交換留学生受け入れ

受入期間：平成26年9月14日（日）～9月25日（木）

受入校	パレード校	18名（男18名）	引率教員2名
	セントモニカズ校	18名（男7名・女11名）	引率教員2名

本校授業に参加及びホームステイにより異文化を体験し、伊勢、京都、名古屋、トヨタ博物館を訪問し日本文化、技術の素晴らしさを感じ、日本への興味を抱いてもらうことによりさらなる国際交流に貢

献できたものと考えます。

また、この事業も20年を経過したこともあり、さらなる両校の深まりを推進させるため記念植樹も行いました。



## 2) オーストラリア交換留学生訪問

訪問期間：平成27年3月13日（金）～27日（金）			
訪問校：パレード校	18名（男8名 女10名）	引率教員	2名
セントモニカズ校	23名（男8名 女15名）	引率教員	2名

各家庭にホームステイすることにより、異文化の体験は勿論のこと、授業参加によりお互いの日常生活の違いを肌で感じ、さらには本場の英会話を体感することにより、語学力の向上や、国際感覚を養う貴重な時間を過ごせたと思われます。



## 3) イギリス語学研修

派遣期間：平成26年7月18日（金）～8月3日（日）	
派遣人数：10名	引率教員1名

本年度よりイギリスギルフォードにある語学学校のインターナショナルクラスで、他国生徒とともに英語を学ぶ、英語学習に主眼を置いた研修プログラムで高校生の短期語学研修を実施しました。

この研修の対象者は英語に関心が深く、英語学習に意欲的に取り組んでいる生徒の中から選抜された生徒が参加しており、海外での語学研修（1日6時間を7日間）、さらにホームステイを通じて、英語の運用能力の向上及び英語学習へのより一層の動機付けを促し学習意欲を育むことができました。



## (8) 学校自己点検・学校関係者評価推進事業

### 1) 学校評価アンケートの実施

保護者、生徒、にそれぞれ評価アンケートを実施し、現状の学校に対する想いを把握することにより、安全、快適、授業環境の整備など過ごしやすい学校運営に努めることを目的に実施しました。

(アンケート内容) 5点満点

	生徒	保護者
学校生活全般	4.76	4.22
学習指導	4.32	3.97
生活指導	3.62	3.92
行事・特別活動	4.00	4.20

保護者・生徒共に教育環境については満足している割合が多く、校則・基本的な生活習慣においては生徒の満足度がやや低くなっていました。

学習指導面では、保護者がやや低い評価であったが、生徒の満足度は高くなっており判断において差異が見られます。

### 2) 学校関係者評価委員会

自己評価及び保護者など学校関係者による評価の実施・公表により、適切に説明責任を果たすとともに、保護者や地域住民からの理解と参画を得ながら、学校、家庭、地域の連携協力により、生徒の穏やかな成長をはかり、健全な学校づくりを推進することを目的として、本年度より学校関係者評価委員会を立ち上げました。

委員数は8名(10月より9名)で、教育関係者(2名)、学識経験者(1名)、地元企業(1名)、地域自治会(3名)、保護者会(2名)から選出しました。

#### i 第1回開催日 平成26年7月18日(金)

全委員出席のもと開催され、学校現況について説明後、各委員から意見をいただき質疑応答形式で進められました。

各委員からは、生徒募集関係、進路、生徒指導など、多くの意見、質問が出されました。

#### ii 第2回開催日 平成26年10月30日(木)

7名参加のもと開催され、人権学習・いじめ事案・生徒指導状況・学校満足度調査の結果などの協議事項について意見交換がなされました。

各委員からは、保護者と学校の関わりや比率や、満足度調査において中・高で考え方の相違が見られその理由の分析についてなど学校対家庭のことについて協議されました。

#### iii 第3回開催日 平成27年2月17日(火)

8名参加のもと開催され、当日授業参観を実施し、感想を聴取し、たいへん良い印象を感じていただきました。その後、進路関係や少子化問題に対する対応など学校経営に対する提案などをいただき、今後の運営等に役立てていきたいと思っております。

### 3) 学校自己評価

(趣旨)

学校の教育目標や教育活動の内容・方法、教育成果、学校の管理運営などについて、より一層の教育活動の充実を図る趣旨で教育活動全般にわたる自己点検・評価を行い、継続的な改善更新、改革を図っています。

前年度の総評をふまえ中高共に、問題点として社会の基盤となるマナー面でやや欠ける点が見られるのでその点を重点的に留意し指導していく必要があると考えられます。

(平成26年度の目標)

学校での教育、指導内容については、基本的に3カ年計画での実施としていますが、目指す学校像としての伝統を重んじ信頼される私学を目指すという内容について、大きな変化はなく生徒の入

れ替わりもある関係上、継続的な評価を行う関係上大幅な見直しではなく、現在の教育目標をより実現する具体的目標、手法としての努力目標の継続発展を図っていきます。

- ◇目指す学校像（教育理念）  
 生徒・保護者・社会の期待に応え、伝統を重んじ信頼される私学を目指す。  
 ◇校訓「言行忠信 表裏相応」の精神のもと、人間性豊かな人材を育成する。  
 ◇崇高な志と社会に貢献できる人材を育成する。  
 ◇自分の夢の実現に向けて、自ら学び、自己を律し、行動できる人材を育成する。

<重点努力目標>

人権・同和教育の推進、進路指導の徹底、基本的生活習慣の確立、規範意識に則った行動力を育成する、学力の向上と充実錬磨に努める、環境を大切にし、世界に貢献できる人材の育成に努めます。

（点検・評価の日程）	
1 平成26年 4月	前年度学校自己評価への評価結果報告及び継続的取組の促進
2 平成26年12月	評価項目の確認と評価方法の決定 (今年度評価項目については、評価結果の継続的推移把握)
3 平成27年3月初旬	評価実施
4 平成27年3月末	集計と分析
5 平成27年4月	職員への結果の公表
6 平成27年5月	評価結果の公表

<結果総評>

（高校） 5点満点

高評価		低評価	
交通安全指導	4. 0	校内実力テストの利用	3. 4
定期考査	3. 9	いじめ・暴力行為の防止	3. 5
外部への学校説明	3. 9		

ここ数年高評価で推移し、学校を挙げての努力が好ましい形で現れています。各学年とも学力向上に向けて熱心に取り組んでおり、学習関連の評価が向上しています。その反面、部活動への取り組みの評価は低下しました。交通安全指導には全職員を挙げて取り組んでいるため高評価でした。

低評価項目については、今後教職員が課題を共有し、目標実現へ向けてバランスよく取り組んでいかねばならないと考えます。

（中学） 5点満点

高評価		低評価	
定期テスト・実力テスト	4. 1	部活動への取組	3. 4
観点別評価	4. 1	公共マナー指導	3. 5
外部への学校説明	4. 1	いじめ・暴力行為防止	3. 6

学習指導への取り組み、計画的授業実現については例年同様高い評価を得ました。しかしながら授業時間の確保や部活動に関連する評価の低下は、いじめや問題行動への対応、指導等が起因しているものと考えます。交通安全、通学マナーの意識向上は口頭だけでなく繰り返し規範意識の獲得を啓発していきたいと思えます。

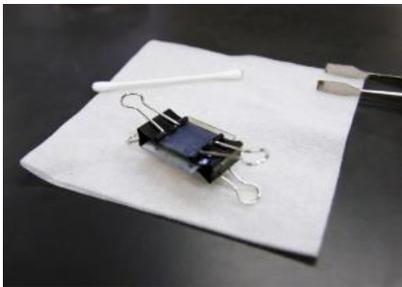
## (9) 科学技術学習探求事業

本校ではサイエンス・パートナーシップ・プロジェクト（SPP）に取り組んで、6年目を迎えました。

この事業を通して生徒たちが、自主的に生き生きと活動し、ますます科学技術に関心が高まり、理科・科学分野を学習探求する楽しさが体験できることは貴重な体験であると同時に視野の拡大がはかられ、自らの進路決定のモチベーションを高める契機となっていることは間違いないと思っています。

Ⅱ類数理コースにおいては、3年間一貫の学習指導を実施するという事は、さらなる未来に貢献し、活躍する人材の育成に結びついていくことを確信しています。

数理コースは文理コースより数学・物理の授業時間を多く実施し、早くから体験型探求入門講座と位置づけし、1・2年は高大連携体制で生徒の理数系への興味・関心を深めることを目的として、多くの理数系大学と連携し知的研究心を育成しています。高校Ⅰ年生対象に、平成26年7月4日（月）～8月24日（木）までを通し「植物から太陽電池を作ろう」として豊田工業大学・「森林フィールドワーク」NPO法人奥矢作森林塾・「グループ別実験と施設見学」核融合科学研究所の協力のもと、環境の授業に取り組みました。（参加数 57名）



（豊田工大講座）



（奥矢作講座）

### Ⅱ類数理コース在籍者数

（平成26年6月1日現在）

3年生	22名
2年生	25名
1年生	59名
合計	106名

特に夏休みを利用した校外学習では、独立行政法人科学技術振興機構（JST）が主催する「サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト（SPP）」講座の一部を利用し、次代を担う人材への理数教育の拡大を図るべき授業を実施しています。

高校Ⅱ年生については三重大学との連携講座として「2014 高校生のための医科学入門」としてⅠ年生よりもう一步踏み込んだ自然の現象についての授業に取り組みました。

テーマ「ラジオゾンデによる気象観測」「地球史実習」「勢水丸海洋調査」

「風力・太陽光発電の電力制御」（総数25名が参加）

その他実習：羽水族館実習「ウニの発生観察実習」（高Ⅱ・5年生2日間で85名の参加）

## (10) 教職員海外研修事業

### 1) 高田中・高等学校教職員海外研究派遣事業

派遣教諭 岡田 博代

視察先 ペルー

視察期間 平成26年8月9日（土）～8月17日（日）

#### <視察・研究内容>

現代のように近代的で便利なものに恵まれた生活をしている我々は、ペルーインカ帝国を訪問したことによって、自分自身を振り返り、知恵と工夫によって生活できる人間力について考える機会を得ました。

このことは文化・文明とは常に最先端にある技術ではなく、信頼関係と誠実さをもって生きることにより、豊かさや幸福感を感じるものだということを生徒に伝えたいと思います。

## 2) 高田中・高等学校教職員海外研究派遣事業

派遣教諭	大西 正
視察先	イギリス
視察期間	平成26年7月30日(水)～8月6日(水)



### <視察・研究内容>

明治時代以来日本に大きな影響を与えてきたイギリスという大国をこの目で見て自然を大切にまた、有効利用している現状を見ることにより、緑と水こそが人の感性のバランスをみずみずしく保つものではないかと考えさせられる景色でした。

教育の場においてこの潤いを取り入れるべく努力をしていきたいと思ひます。

## 3) 高田中・高等学校教職員海外派遣事業

派遣教諭	水野 知行
視察先	アメリカ合衆国
視察期間	平成26年8月11日(月)～8月19日(火)

### <視察・研究内容>

アメリカ、シカゴ周辺の芸術・文化・科学・歴史にかかわるミュージアムやモニュメントシカゴ歴史博物館(人権博物館を思わせる黒人奴隷、女性問題などの歴史が展示されている)を見学したことで見聞を広めることができ、今後の教科指導、人権問題について生かしていきたいと思ひます。

## (11) 人権教育研修の推進

本校では、生徒達には「うわさや偏見に流されず真実を確かめ自分自身の考えを持つ」「差別に立ち向かい行動する力をつける」「他者の異なった価値観を尊重しながら仲間同士のつながりを強める」ということを目標として人権教育を実施しています。

さらに、本年も2月17日に開催された人権センター主催の研修会へ積極参加(約30名)することにより教職員の人権意識向上に努めると共に、2月21日(土)には高I・4年・中2を対象とした人権デーを開催し教員の授業参加を実施しました。さらに、学苑本部主催の夏期研修人権講演会「ひとり語りしまひき鬼と人権」を保護者や地域住民と共に拝聴し人権問題の大切さを痛切に感じられました。

文化祭においても中学、高校それぞれ普段の生活において人権を意識したことをテーマに積極的に取り組みました。

また、毎年教職員のフィールドワーク(毎年20数名の参加)を実施し、人権問題について積極的に取り組んでいる地域、組織に出向いて直接体感することで感じ得たことを自ら再認識し、生徒への教育の一環として還元しています。

人権教育については、学校のみでは推進することが難しいので、今後も地域や家庭との連携が重要と考えられます。



## (12) 高田中・高等学校公開イベント事業

### 1) 小学生を対象とした「学びの広場 IN 高田」の開催

高田中学校を受験希望している生徒に対し、より魅力を深めるべく興味あるイベントに取り組み、いかにして生徒確保を行うか重要な問題となっている昨今、私立中学校の魅力を最大限に発揮し、その一貫としてより知っていただくために小学生4・5年生を対象とした「学びのひろば IN 高田」を年3回開催し、情報発信に努めています。

i 8月24日(日) 参加 135名(定員:120名)

テーマ・「これって仏教語？」

- ・「プラネタリウム～今夜の三重の空・世界の空」
- ・「おもしろ歴史教室」
- ・「英語で遊ぼう」

ii 11月 8日(土) 参加 92名(定員:250名)

テーマ・たかだ算数オリンピック

- ・部活動ってなに

iii 2月14日(土) 参加 100名(定員:120名)

テーマ・たのしい理科実験

- ・おもしろ漢字教室
- ・cooking 教室
- ・親子でたのしむ算数マジック



以上のイベントの他、広くマスコミを利用した広報活動や、塾を対象とした説明会を積極的実施し、各地域で開催される私立中学展に出向いてPRに努めました。



### 2) 中学入試説明会

本年度も中学校受験生を対象に、平成26年9月15日(月・祝)に入試説明会を実施しました。

378世帯が参加し、入試の概要や施設見学等を行いました。

### 3) 高等学校公開イベント・オープンキャンパス・個別見学会

高等学校に関しては、少子化が進む中、教員が各中学校を訪問し受験生と保護者に対し入試関連内容を詳細に説明し、より高田の教育の充実内容を提供しています。各中学校訪問以外にオープンキャンパスを8月23日(土)に実施しました。

生徒、保護者共に1,400名が参加、さらにより深く知りたい生徒並びに保護者に対して個別見学会を10月4日・11月1日・11月15日・12月6日の各土曜日に開催し、参加者は4日間合計で生徒119名、保護者73名でした。

学校生活や授業内容及びクラブ活動について詳細に説明をし、明るく楽しい学校生活を送っていただくべく事前PRに努めました。

また、経済的に苦しい家庭においても高等教育が安心して受けられるよう国の就学支援制度、県の減免制度に加え、さらに高田高等学校独自の助成制度(教育充実費相当額助成)も充実させています。

(対象基準は就学支援金加算制度と同基準)



### (13) 学校安全・保健計画の推進

学校安全管理の立場から交通ルールの遵守、自転車の安全点検、校内安全点検などを実施すると共に、津市教育委員会補導センターと共同で毎月市内の生徒が集まりそうな場所を重点的に巡回指導を行っています。



また、交通事故対策として自転車が関与する事故が多い関係上、本学の約900名が自転車通学であり、学校周辺は狭い道路や見通しの悪い交差点が多いので、毎年4月に新入生に対して自動車学校から講師を招き、自転車交通安全講習を行いました。

基本的なルールや事故の悲惨さを訴え、知識や技術の向上を図り、地域における自転車事故の減少に努めました。

さらに、生徒と教員が街頭登下校指導をするなどマナーアップや安全意識の高揚に努めました。

次に学校保健の立場から、校医健診や他の各種検査を通じ生徒個々の健康状態を把握し、常に健康管理に努めると共に、保健だよりを毎月発行しその時期の内容に合った啓発に努めました。

新たな感染症が発生した場合などの緊急対策や予防教育の推進についても積極的な取り組みに努めました。

### (14) 施設設備整備事業の実績

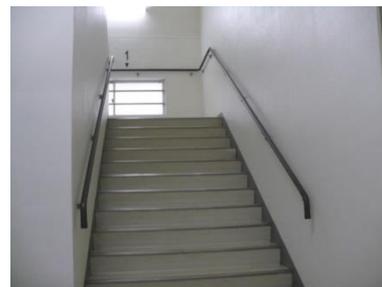
#### 1) 校舎内バリアフリー化工事

施工期間 6月16日～8月29日  
施工業者 (株) 辻工務店  
総事業費 11,880,000円



#### 2) 5号館 1階壁塗装・階段手摺取替工事

施工期間 7月21日～8月31日  
施工業者 森田工業所  
総事業費 10,130,400円



#### 3) ガラス屋根(5号館側)落雪対策工事

施工期間 7月20日～8月31日  
施工業者 (株) 鴻池組  
総事業費 10,260,000円



4) IC教室及び理科特別教室他ノートパソコン等購入

施工期間 8月1日～8月31日  
納入業者 富士ゼロックス三重(株)  
設定管理 (株) システムテクノ  
事業費 11,907,680円



5) 理科顕微鏡購入(43台)

納入日 8月29日  
納入業者 ハセガワ理化  
事業費 2,972,160円



6) 本館エレベーター改修工事

施工期間 12月14日～25日  
施工業者 三菱電機ビルテクノサービス(株)  
総事業費 11,340,000円



7) 新JIS規格 生徒用机・椅子等入替(高Ⅲ 430名分、教卓 12台)

納入日 4月5日～6日  
納入業者 (株) アイチ  
総事業費 6,890,940円



## 4 財務の概要

### (1) 資金収支計算書の概要

資金収支計算書は、会計年度の教育・研究その他の活動に対応するすべての収支内容並びに支払資金の収支のてん末を明らかにしたものです。

本学苑の資金収支決算総額は42億400万円となり、前年度の決算額と比較し5,900万円の増額となりました。

### 平成26年度 資金収支計算書総括

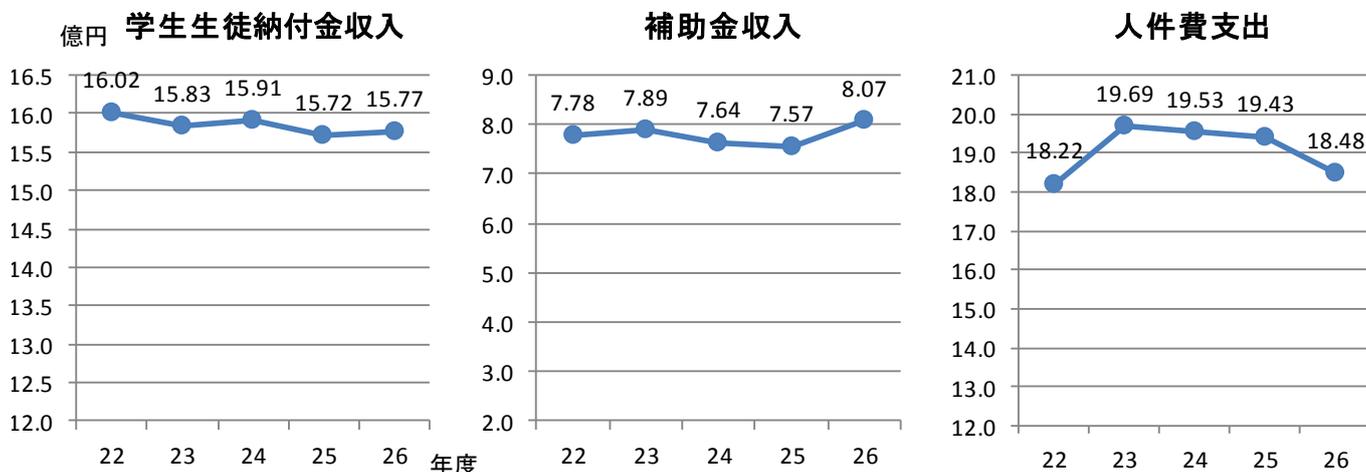
(単位:千円)

収入の部			支出の部		
科 目	決 算	前年比	科 目	決 算	前年比
学生生徒等納付金収入	1,576,719	4,589	人 件 費 支 出	1,848,448	▼ 94,791
手 数 料 収 入	48,768	▼ 5,180	教 育 研 究 経 費 支 出	315,610	▼ 59,150
寄 付 金 収 入	7,111	1,188	管 理 経 費 支 出	92,470	5,836
補 助 金 収 入	806,771	49,312	借 入 金 等 利 息 支 出	0	0
資 産 運 用 収 入	15,788	4,959	借 入 金 等 返 済 支 出	0	0
資 産 売 却 収 入	700	▼ 50	施 設 関 係 支 出	33,628	▼ 16,500
事 業 収 入	14,334	346	設 備 関 係 支 出	36,455	▼ 4,141
雑 収 入	143,394	▼ 44,594	資 産 運 用 支 出	372,700	148,060
前 受 金 収 入	291,634	4,005	そ の 他 の 支 出	1,245,754	24,247
そ の 他 の 収 入	1,467,961	24,977	資 金 支 出 調 整 勘 定	△ 54,465	▼ 14,360
資 金 収 入 調 整 勘 定	△ 412,153	85,914			
<b>当年度収入合計</b>	<b>3,961,026</b>	<b>125,466</b>	<b>当年度支出合計</b>	<b>3,890,600</b>	<b>▼ 10,798</b>
前年度繰越支払資金	243,440	▼ 65,839	次年度繰越支払資金	313,865	70,426
<b>収入の部合計</b>	<b>4,204,465</b>	<b>59,627</b>	<b>支出の部合計</b>	<b>4,204,465</b>	<b>59,627</b>

(注)△は計算書式上のマイナス表示、▼は比較上のマイナス表示(以下同じ)。

前年比は平成25年度決算との比較です。

### 主要科目推移表(平成22~26年度)



## 平成26年度 資金収支計算書(短期大学)

(単位:千円)

収入の部			支出の部		
科 目	決 算	前年比	科 目	決 算	前年比
学生生徒等納付金収入	451,632	16,513	人 件 費 支 出	383,909	▼ 48,249
手 数 料 収 入	9,115	581	教 育 研 究 経 費 支 出	109,840	▼ 38,675
寄 付 金 収 入	0	0	管 理 経 費 支 出	31,343	▼ 808
補 助 金 収 入	144,438	18,446	施 設 関 係 支 出	464	▼ 16,809
資 産 運 用 収 入	3,925	478	設 備 関 係 支 出	18,240	▼ 13,956
資 産 売 却 収 入	0	0	そ の 他 の 支 出	142,728	2,518
事 業 収 入	14,334	346	資 金 支 出 調 整 勘 定	△ 21,895	▼ 6,035
雑 収 入	10,817	▼ 24,763			
前 受 金 収 入	57,474	▼ 2,055			
そ の 他 の 収 入	187,702	63,753			
資 金 収 入 調 整 勘 定	△ 67,059	39,205			
当年度収入合計	<b>812,377</b>	<b>112,504</b>	当年度支出合計	<b>664,631</b>	<b>▼ 122,014</b>
前年度繰越支払資金	<b>69,318</b>	<b>▼ 28,587</b>	次年度繰越支払資金	<b>102,533</b>	<b>33,215</b>
収入の部合計	<b>881,695</b>	<b>83,917</b>	支出の部合計	<b>767,163</b>	<b>▼ 88,800</b>

## 平成26年度 資金収支計算書(中高等学校)

(単位:千円)

収入の部			支出の部		
科 目	決 算	前年比	科 目	決 算	前年比
学生生徒等納付金収入	1,125,087	▼ 11,924	人 件 費 支 出	1,454,241	▼ 46,695
手 数 料 収 入	39,654	▼ 5,761	教 育 研 究 経 費 支 出	205,770	▼ 20,475
寄 付 金 収 入	2,711	▼ 12	管 理 経 費 支 出	37,851	2,088
補 助 金 収 入	662,332	30,866	施 設 関 係 支 出	23,220	▼ 9,634
資 産 運 用 収 入	3,970	299	設 備 関 係 支 出	11,152	2,896
雑 収 入	132,237	▼ 19,574	そ の 他 の 支 出	915,639	22,322
前 受 金 収 入	234,160	6,060	資 金 支 出 調 整 勘 定	△ 24,330	▼ 2,856
そ の 他 の 収 入	1,034,431	23,782			
資 金 収 入 調 整 勘 定	△ 345,094	46,709			
当年度収入合計	<b>2,889,487</b>	<b>70,445</b>	当年度支出合計	<b>2,623,544</b>	<b>▼ 52,353</b>
前年度繰越支払資金	<b>125,477</b>	<b>▼ 38,879</b>	次年度繰越支払資金	<b>143,974</b>	<b>18,497</b>
収入の部合計	<b>3,014,964</b>	<b>31,566</b>	支出の部合計	<b>2,767,518</b>	<b>▼ 33,856</b>

## (2) 消費収支計算書の概要

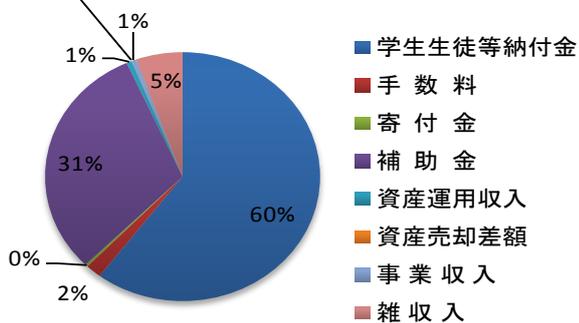
消費収支計算書は、当該会計年度の帰属収入、基本金組入額、消費収入及び消費支出の内容並びに消費収支の均衡状態を示すものです。

### 平成26年度 消費収支計算書総括

(単位:千円)

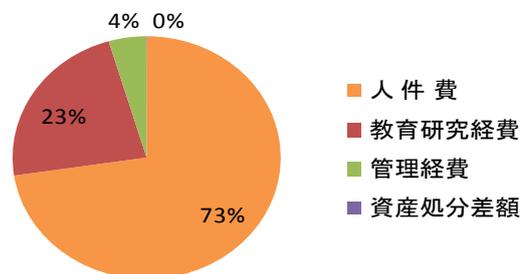
収入の部			支出の部		
科 目	決 算	前年比	科 目	決 算	前年比
学生生徒等納付金	1,576,719	4,589	人 件 費	1,839,813	▼ 90,686
手 数 料	48,768	▼ 5,180	教 育 研 究 経 費	577,425	▼ 50,877
寄 付 金	7,741	1,059	(うち、減価償却額)	(261,231)	7,769
補 助 金	806,771	49,312	管 理 経 費	115,014	6,544
資 産 運 用 収 入	15,788	4,959	(うち、減価償却額)	(18,310)	725
資 産 売 却 差 額	700	▼ 50	借 入 金 等 利 息	0	0
事 業 収 入	14,334	346	資 産 処 分 差 額	943	▼ 1,584
雑 収 入	143,394	▼ 44,594			
帰属収入合計	2,614,215	10,441			
基本金組入額	△ 46,627	▼ 37,016			
消費収入の部合計	2,567,588	▼ 26,575	消費支出の部合計	2,533,194	▼ 136,603
			当年度消費収入超過額	34,394	110,028
			前年度繰越消費支出超過額	3,702,676	75,634
			翌年度繰越消費支出超過額	3,668,283	▼ 34,394

帰属収入構成比



帰属収入 26億1,420万円

消費支出構成比(対帰属収入比)



消費支出 25億3,320万円

### ○帰属収入

帰属収入とは、学校法人の負債とならない収入で、学生生徒等納付金、手数料、寄付金、補助金、資産運用収入、雑収入等が含まれます。

### ○基本金組入額

基本金組入額とは、学校法人の永続的維持に必要な資産を継続的に保持するために、維持すべきものとして帰属収入のうちから組入れた金額です。

基本金には、第1号基本金から第4号基本金まで、4種類の基本金があります。

第1号基本金は、施設設備の整備拡充のために支出した金額であり、平成26年度の組入額は約4,660万円となりました。

主な内訳は、高等学校の1号館・体育館のバリアフリー化工事及び中高等学校の本館エレベーター改修工事等によるものです。

第2号基本金は、施設設備を取得するために、事前に組入れる金額で、平成26年度はありませんでした。

第3号基本金は、教育・研究活動の維持向上を目的とした教育研究基金、奨学基金等の設定であり、本学苑は組入れを行っていません。

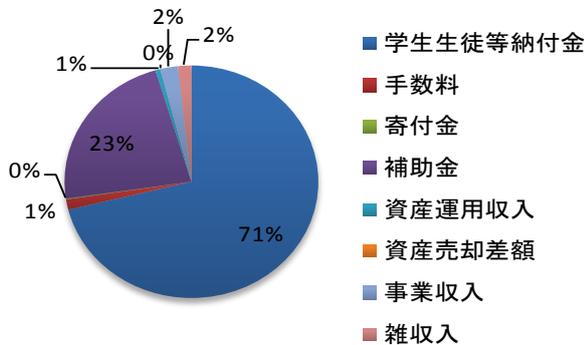
第4号基本金は、恒常的に保持すべき資金の額の設定であり、平成26年度の組入額はありませんでした。

# 平成26年度 消費収支計算書(短期大学)

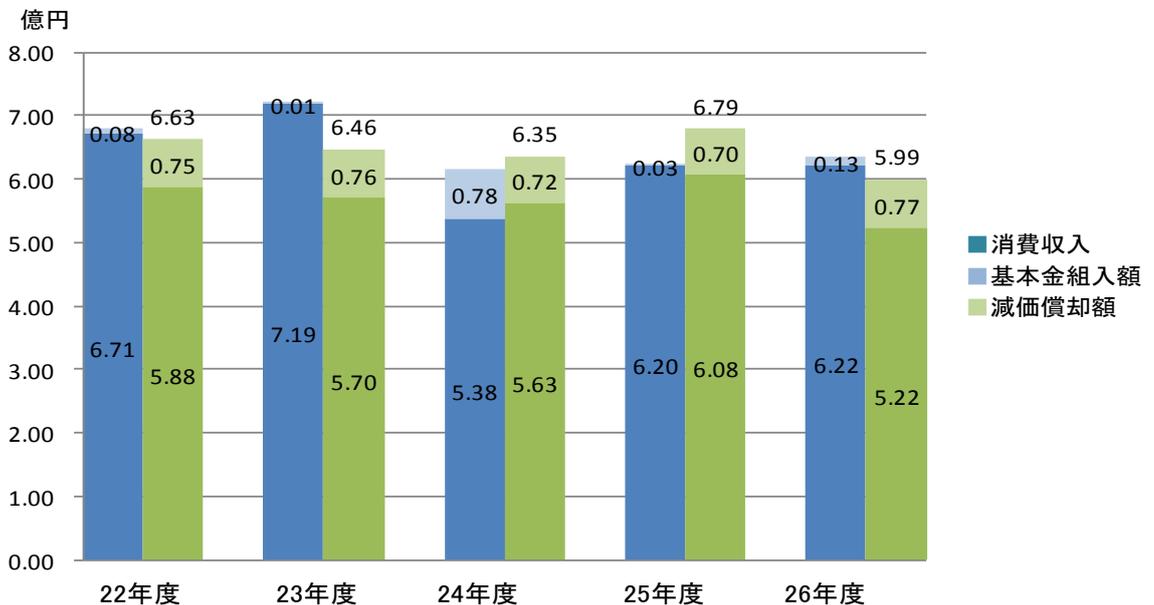
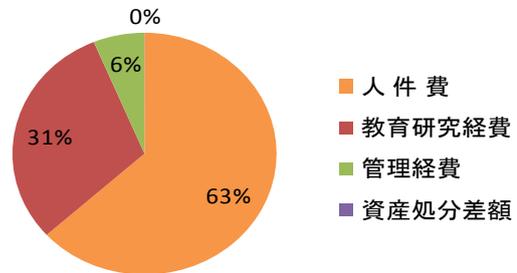
(単位:千円)

収入の部			支出の部		
科目	決算	前年比	科目	決算	前年比
学生生徒等納付金	451,632	16,513	人件費	379,020	▼ 44,711
手数料	9,115	581	教育研究経費	182,375	▼ 31,488
寄付金	609	▼ 124	(うち、減価償却額)	(71,951)	6,682
補助金	144,438	18,446	管理経費	37,455	▼ 1,059
資産運用収入	3,925	478	(うち、減価償却額)	(5,241)	(▼ 239)
資産売却差額	0	0	資産処分差額	124	▼ 2,403
事業収入	14,334	346			
雑収入	10,817	▼ 24,763			
<b>帰属収入合計</b>	<b>634,869</b>	<b>11,477</b>			
基本金組入額	△ 12,548	▼ 9,476			
<b>消費収入の部合計</b>	<b>622,321</b>	<b>2,001</b>	<b>消費支出の部合計</b>	<b>598,974</b>	<b>▼ 79,661</b>
			当年度消費収入超過額	23,347	81,662
			前年度繰越消費支出超過額	2,374,519	58,315
			翌年度繰越消費支出超過額	2,351,172	▼ 23,347

帰属収入構成比



消費支出構成比(対帰属収入比)

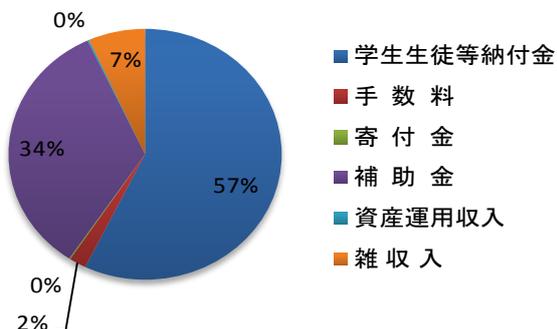


# 平成26年度 消費収支計算書(中高等学校)

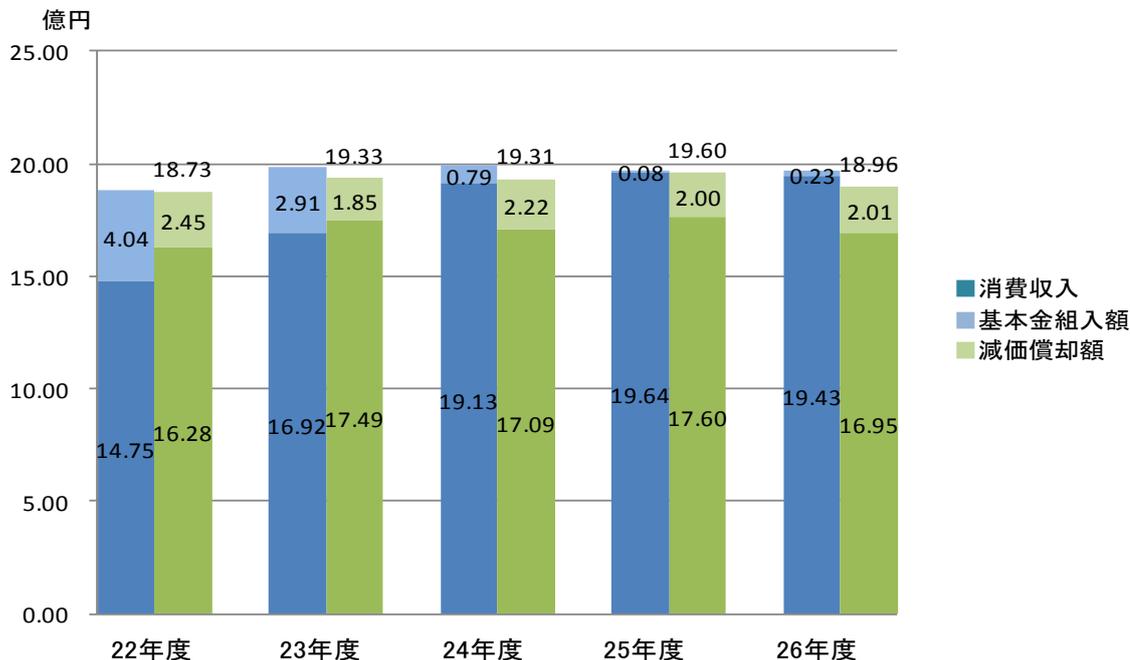
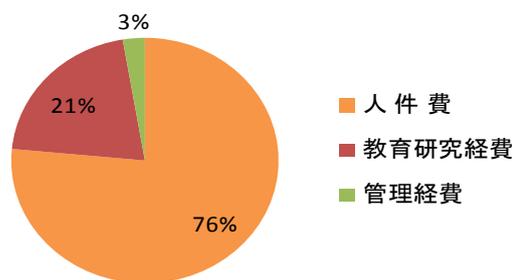
(単位:千円)

収入の部			支出の部		
科 目	決 算	前年比	科 目	決 算	前年比
学 生 生 徒 等 納 付 金	1,125,087	▼ 11,925	人 件 費	1,450,495	▼ 46,129
手 数 料	39,654	▼ 5,761	教 育 研 究 経 費	395,049	▼ 19,389
寄 付 金	2,719	▼ 19	(うち、減価償却額)	(189,279)	1,086
補 助 金	662,332	30,866	管 理 経 費	50,478	2,099
資 産 運 用 収 入	3,970	299	(うち、減価償却額)	(11,743)	(▼ 3)
雑 収 入	132,237	▼ 19,574			
帰属収入合計	<b>1,965,999</b>	<b>▼ 6,113</b>			
基本金組入額	<b>△ 23,371</b>	▼ 15,877			
消費収入の部合計	<b>1,942,628</b>	<b>▼ 21,990</b>	消費支出の部合計	<b>1,896,022</b>	<b>▼ 63,419</b>
			当年度消費収入超過額	<b>46,606</b>	41,429
			前年度繰越消費収入超過額	<b>485,646</b>	5,176
			翌年度繰越消費収入超過額	<b>532,252</b>	46,606

帰属収入構成比



消費支出構成比(対帰属収入比)



平成26年度 補助金一覧表

(単位:千円)

補助金名	当年度	前年度	差異
	①	②	① - ②
<b>短期大学補助金合計</b>	<b>144,438</b>	<b>125,993</b>	<b>18,445</b>
<b>国庫補助金計</b>	<b>144,362</b>	<b>125,913</b>	<b>18,449</b>
私立大学等経常費補助金	144,062	110,505	33,557
私立学校施設整備補助金(ICT)		13,880	△ 13,880
私立大学等研究設備整備費等補助金(医療的ケア)		1,348	△ 1,348
障害者介助等助成金	300	180	120
<b>地方公共団体補助金計</b>	<b>76</b>	<b>80</b>	<b>△ 4</b>
結核健康診断予防接種費補助金	76	80	△ 4
<b>中・高補助金合計</b>	<b>662,332</b>	<b>631,466</b>	<b>30,866</b>
<b>高等学校補助金計</b>	<b>513,083</b>	<b>490,904</b>	<b>22,179</b>
<b>国庫補助金計</b>	<b>8,996</b>	<b>0</b>	<b>8,996</b>
私立大学等研究設備整備費等補助金(IT補助)	3,932		3,932
理科教育設備整備費補助金	1,105		1,105
私立学校施設整備費補助金(バリアフリー)	3,959		3,959
<b>地方公共団体補助金計</b>	<b>500,756</b>	<b>487,679</b>	<b>13,077</b>
私立高等学校等振興補助金	493,619	479,318	14,301
授業料減免補助金	4,433	5,641	△ 1,208
授業料減免補助金(特例措置事業分)		59	△ 59
入学金補助金	1,238	1,035	203
人権教育推進事業費補助金	374	438	△ 64
結核健康診断予防接種費補助金	193	212	△ 19
外国人語学指導助手補助金	300	300	0
教育改革推進事業補助金	600	600	0
人権を考える児童・生徒の集い開催事業		76	△ 76
<b>市町村補助金計</b>	<b>3,331</b>	<b>3,225</b>	<b>106</b>
私立高等学校振興補助金 津市	2,758	2,698	60
私立高等学校振興補助金 鈴鹿市	375	377	△ 2
津市国際交流事業補助金	100	100	0
スポーツ奨励補助金	99	50	49
<b>中学校補助金計</b>	<b>149,249</b>	<b>140,562</b>	<b>8,687</b>
<b>国庫補助金計</b>	<b>1,691</b>	<b>0</b>	<b>1,691</b>
私立大学等研究設備整備費等補助金(IT)	1,311		1,311
理科教育設備整備費補助金	380		380
<b>地方公共団体補助金計</b>	<b>147,558</b>	<b>140,562</b>	<b>6,996</b>
私立高等学校等振興補助金	147,292	140,409	6,883
私立学校人権教育推進補助金	266	77	189
人権を考える児童・生徒の集い開催事業		76	△ 76
<b>短大、中・高補助金 総計</b>	<b>806,771</b>	<b>757,459</b>	<b>49,312</b>

### (3) 貸借対照表の概要

貸借対照表は、平成27年3月31日現在の財政状態を示しています。

#### 平成26年度 貸借対照表(総括)

(単位:千円)

科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	7,779,641	7,687,257	92,385
有形固定資産	6,485,890	6,696,177	△ 210,287
土地	865,121	865,121	0
建物	4,495,052	4,666,572	△ 171,520
構築物	736,603	784,721	△ 48,117
教育研究用機器備品	109,405	124,178	△ 14,772
その他の機器備品	7,502	6,064	1,438
図書	216,316	213,316	3,000
車 輜	16,027	6,286	9,742
学 苑 林	29,919	29,919	0
建設仮勘定	9,943	0	9,943
その他の固定資産	1,293,751	991,079	302,672
借地権	2,258	2,258	0
電話加入権	1,286	1,286	0
施設利用権	740	821	△ 81
有価証券	2,854	2,854	0
差し入れ保証金	350	350	0
退職給与引当特定資産	261,009	261,009	0
施設設備拡充引当特定資産	937,450	594,750	342,700
長期火災保険特定資産	76,486	112,478	△ 35,992
長期前払金	11,319	15,274	△ 3,955
流動資産	525,603	532,362	△ 6,759
現金預金	313,865	243,440	70,426
未収入金	124,524	189,639	△ 65,115
立替金	27,670	37,737	△ 10,067
修学旅行費預り資産	53,559	55,567	△ 2,007
卒業諸費預り資産	5,620	5,544	76
前払金	365	436	△ 71
資産の部合計	8,305,244	8,219,618	85,626
固定負債	235,995	244,630	△ 8,635
退職給与引当金	235,995	244,630	△ 8,635
流動負債	430,562	417,322	13,240
未払金	54,029	39,933	14,096
前受金	291,634	287,629	4,005
預り金	25,720	28,649	△ 2,929
修学旅行費預り金	53,559	55,567	△ 2,007
卒業諸費預り金	5,620	5,544	76
負債の部合計	666,557	661,952	4,605
第1号 基本金	11,125,970	11,079,343	46,627
第4号 基本金	181,000	181,000	0
基本金の部合計	11,306,970	11,260,343	46,627
翌年度繰越消費支出超過額	3,668,283	3,702,676	△ 34,394
消費収支差額の部合計	△ 3,668,283	△ 3,702,676	34,394
負債の部、基本金の部、及び消費収支差額	8,305,244	8,219,618	85,626

注記 1. 重要な会計方針

①引当金の計上基準

○徴収不能引当金・・・・・・・・・・・・・・・・未収入金の徴収不能に備えるため、個別に見積もった徴収不能見込額を計上している。

○退職給与引当金

(短期大学) 退職金の支給に備えるため、期末要支給額 116,331,282 円の100%を基にして私立大学退職金財団に対する掛金の累積額と交付金の累積額との繰入調整額を加減した金額を計上している。

(中学校及び高等学校) 退職金の支給に備えるため、期末要支給額 912,100,790 円から三重県私学振興会より交付金相当額を控除した金額の100%を計上している。

②その他重要な会計方針

○有価証券の評価基準及び評価方法

\*移動平均法に基づく原価法である。

2. 重要な会計方針の変更等

該当なし

3. 減価償却額の累計額の合計額 4,682,824,040円

4. 徴収不能引当金の合計額 0円

5. 担保に供されている資産の種類及び額 0円

6. 翌会計年度以降の会計年度において基本金へ組入れを行うこととなる金額 17,109,208円

7. その他財政及び経営の状況を正確に判断するために必要な事項

有価証券の時価情報

(単位:円)

種 類	勘定科目	当年度(平成27年3月31日)		
		貸借対照表計上額	時 価	差 額
時価が貸借対照表計上額を超えるもの (うち満期保有目的の債券)	有価証券	2,853,674	24,043,175	21,189,501
		(0)	(0)	(0)
	退職給与引当特定資産	48,518,500	100,613,700	52,095,200
		(48,518,500)	(100,613,700)	(52,095,200)
	施設設備拡充引当特定資産	280,000,000	289,556,000	9,556,000
		(0)	(0)	(0)
小計		331,372,174	414,212,875	82,840,701
(うち満期保有目的の債券)		(48,518,500)	(100,613,700)	(52,095,200)
時価が貸借対照表計上額を超えないもの (うち満期保有目的の債券)	施設設備拡充引当特定資産	100,000,000	100,000,000	0
		(100,000,000)	(100,000,000)	(0)
小計		100,000,000	100,000,000	0
(うち満期保有目的の債券)		(100,000,000)	(100,000,000)	(0)
合計		431,372,174	514,212,875	82,840,701
(うち満期保有目的の債券)		(148,518,500)	(200,613,700)	(52,095,200)

### (4) 財務比率推移表

(単位:%)

分類	区 分		24年度	25年度	26年度	評	25年度		分 類
	比 率	算式(×100)	(短大) [中高]	(短大) [中高]	(短大) [中高]		全国平均		
貸借対照表関係比率	自己資金比率	$\frac{\text{自己資金}}{\text{総資金}}$	91.7	91.9	92.0	△	88.7		自己資金は充実されているか
	消費収支差額比率	$\frac{\text{消費収支差額}}{\text{総資金}}$	△ 43.6	△ 45.1	△ 44.2	△	△ 14.5		
	基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	100.0	99.9	101.5	△	97.7		
	固定比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資金}}$	101.9	101.7	101.8	▼	95.5		長期資金で固定資産は賅われているか
	固定長期適合率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資金} + \text{固定負債}}$	98.6	98.5	98.8	▼	89.5		
	固定資産比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}}$	93.5	93.5	93.7	▼	84.6		資産構成はどうか
	流動資産比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{総資産}}$	6.5	6.5	6.3	△	15.4		
	減価償却比率	$\frac{\text{減価償却累計額(図書を除く)}}{\text{減価償却資産取得価額(〃)}}$	38.7	40.5	42.8	～	50.6		
	流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	125.7	127.6	122.1	△	282.1		
	前受金保有率	$\frac{\text{現金預金}}{\text{前受金}}$	100.3	84.6	107.6	△	426.5		負債に備える資産が蓄積されているか
	退職給与引当預金率	$\frac{\text{退職給与引当特定預金}}{\text{退職給与引当金}}$	101.4	106.7	110.6	△	63.3		負債の割合はどうか
	固定負債比率	$\frac{\text{固定負債}}{\text{総資金}}$	3.1	3.0	2.8	▼	5.9		
	流動負債比率	$\frac{\text{流動負債}}{\text{総資金}}$	5.2	5.1	5.2	▼	5.4		
	総負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	8.3	8.1	8.0	▼	11.3		
負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{自己資金}}$	9.0	8.8	8.7	▼	12.8			
消費費収支計算書関係比率	消費支出比率	$\frac{\text{消費支出}}{\text{帰属収入}}$	98.9 (103.1) [96.9]	102.5 (108.9) [99.4]	96.9 (94.3) [96.4]	▼	短大 101.2	中・高 97.3	経営状況はどうか
	学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{帰属収入}}$	60.6 (71.9) [57.6]	60.4 (69.8) [57.7]	60.3 (71.1) [57.2]	～	61.8	52.2	収入構成はどうか
	補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{帰属収入}}$	29.1 (19.6) [32.3]	29.1 (20.2) [32.0]	30.9 (22.8) [33.7]	△	25.2	37.1	
	人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{帰属収入}}$	73.4 (66.5) [75.8]	74.1 (68.0) [75.9]	70.4 (59.7) [73.8]	▼	58.5	64.6	支出構成は適切であるか
	教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{帰属収入}}$	21.5 (30.3) [19.0]	24.1 (34.3) [21.0]	22.1 (28.7) [20.1]	△	25.7	26.2	
	管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{帰属収入}}$	3.9 (6.2) [2.2]	4.2 (6.2) [2.5]	4.4 (5.9) [2.6]	▼	10.3	5.2	
	借入金等利息比率	$\frac{\text{借入金等利息}}{\text{帰属収入}}$	0.0 (0.0) [0.0]	0.0 (0.0) [0.0]	0.0 (0.0) [0.0]	▼	0.3	0.4	
	基本金組入率	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{帰属収入}}$	7.2	0.4	1.8	△	9.4	9.0	収入と支出のバランスはとれているか
	人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	121.2 (92.5) [131.4]	122.8 (97.4) [131.6]	116.7 (83.9) [128.9]	▼	94.6	123.8	
	消費収支比率	$\frac{\text{消費支出}}{\text{消費収入}}$	106.5 (118.0) [100.9]	102.9 (109.4) [99.7]	98.7 (96.2) [97.6]	▼	111.7	106.9	

評価指標 △:高い値が良い ▼:低い値が良い ～:どちらともいえない

## (5) 財 産 目 録

(単位:千円)

一、資産総額	8,305,244
内 1.基本財産	6,455,971
2.運用財産	1,849,273
二、負債総額	666,557
三、正味財産	7,638,687

項 目	数 量	金 額
<b>(一) 資 産</b>		<b>8,305,244</b>
<b>1. 基 本 財 産</b>		<b>6,455,971</b>
(ア) 土 地	91,429.86 m <sup>2</sup>	865,121
(イ) 建 物	39,650.03 m <sup>2</sup>	4,495,052
(ウ) 構 築 物	191 点	736,603
(エ) 図 書	96,156 冊	216,316
(オ) 教育研究用機器備品	15,650 点	109,405
(カ) その他機器備品	151 点	7,502
(キ) 車 輛	8 台	16,027
(ク) 建設仮勘定		9,943
<b>2. 運 用 財 産</b>		<b>1,849,273</b>
(ア) 現金及び預金		313,865
(イ) 修学旅行費預り資産		53,559
(ウ) 卒業諸費預り資産		5,620
(エ) 未 収 入 金		124,524
(オ) 借 地 権	1 点	2,258
(カ) 電 話 加 入 権	15 基	1,286
(キ) 施 設 利 用 権	3 点	740
(ク) 差 し 入 れ 保 証 金		350
(ケ) 有 価 証 券	48,217.00 株	2,854
(コ) 土 地	61,913.00 m <sup>2</sup>	29,919
(サ) 退職給与引当特定資産		261,009
(シ) 長期火災保険特定資産		76,486
(ス) 施設設備拡充引当特定資産		937,450
(セ) 長 期 前 払 金		11,319
(ソ) 前 払 金		365
(タ) 立 替 金		27,670
<b>(二) 負 債</b>		<b>666,557</b>
<b>1. 固 定 負 債</b>		<b>235,995</b>
(ア) 退職給与引当金		235,995
<b>2. 流 動 負 債</b>		<b>430,562</b>
(ア) 未 払 金		54,029
(イ) 前 受 金		291,634
(ウ) 預 り 金		84,899
(1) 職員源泉等預り金		25,720
(2) 修学旅行費預り金		53,559
(3) 卒業諸費預り金		5,620

